



islonline

ISL Light マニュアル

目次

1	ISL Light とは.....	4
2	セットアップ.....	6
3	接続方法.....	7
3.1	ワンタイム接続.....	7
3.2	常駐接続.....	9
3.3	アクション.....	17
3.4	メニュー.....	19
4	操作画面.....	21
4.1	ツールバー.....	23
4.2	コントロールバー.....	33
5	終了方法.....	34
6	具体的な操作.....	37
6.1	ファイル（フォルダー）を転送する.....	37
6.2	ファイルマネージャー.....	41
6.3	ペンツールを使用する.....	45
6.4	ヘッドセット、カメラを使って会話を行う.....	46
6.5	録画する.....	47
6.6	セッションを終了、一時停止する.....	52
6.7	セッションを転送する.....	55
6.8	オペレーターを招待する.....	59
6.9	履歴を見る、出力する.....	64
6.10	常駐接続をセットアップする.....	70
6.11	端末をグループで管理する.....	75
6.12	代替接続を利用する.....	79
6.13	画面をカスタマイズする.....	88
6.14	応用的な使い方 WIN	89
7	設定.....	96
7.1	一般.....	97
7.2	基本設定.....	98
7.3	ファイル転送.....	99
7.4	レコーディング.....	99
7.5	音声およびビデオ.....	99
7.6	ポート転送.....	100
7.7	権限設定.....	101
7.8	カスタマイズ.....	101

8	ISL Light のアップグレード方法.....	102
9	アンインストール.....	103

本マニュアルについて

- ・本マニュアルで使用している画像は、Windows OS のものです。macOS・Linux の X Window System をご利用の場合は一部画像が異なる場合がございますのでご了承ください。
- ・macOS・Linux OS をご利用の場合は、ISL Light の機能に一部制限がございます。詳しくは各ページの ➡(補足) をご参照ください。
- ・一部の機能は以下のマークがある OS でのみ利用可能です。
 - WIN** : Windows OS でのみ利用可能
 - Mac** : macOS でのみ利用可能
 - Linux** : Linux OS でのみ利用可能
- ・ISL Online は現在「パブリッククラウド」「プライベートクラウド」「オンプレミス」の 3 種類のライセンスがございます。プライベートクラウドライセンスについてはオンプレミスライセンスの設定をご参照ください。

➡(補足) Mac のスクロールバーについて

Mac OS X 10.7 (Lion) 以降、Mac ではデフォルトの設定でスクロールバーは非表示(マウスまたはトラックパッドに基づいて自動的に表示)となっています。スクロールバーを常に表示するには、[システム環境設定] - [一般] で「スクロールバーの表示」を「常に表示」に設定する必要があります。



1 ISL Light とは

ISL Light は離れた場所にある端末の画面を共有・操作して、ヘルプデスクやコールセンターなどのテクニカルサポート業務を大幅に効率化するリモートサポートツールです。電話だけでは説明が伝わらず多くの時間と労力を費やしていた場面でも、ISL Light を使って接続先端末の画面を自分の端末上に表示・操作してクライアントが抱えている問題点を迅速に解決できます。

ISL Light はインターネット上に設置されたサーバーを利用する「パブリッククラウドライセンス」、「プライベートクラウドライセンス」、自社サーバーを使用する「オンプレミスライセンス」の3種類のライセンスでご利用いただけます。

動作環境

※最新の動作環境および詳細は、以下のページをご参照ください。

<https://www.islonline.jp/features/requirements.html>

対応 OS

Windows :

Windows 10 (32bit および 64bit) / 11

Windows Server 2016 / 2019 / 2022

Mac :

macOS Mojave / Catalina / Big Sur / Monterey / Ventura / Sonoma / Sequoia

※ Mac OS X Server はサポートしていません。

Linux :

Ubuntu 20.04 LTS - 22.04 LTS (64bit)

※いずれも「X Window System」のインストールが必要です。

通信環境

- ・ 通信速度：256Kbps (DSL) 以上
- ・ 通信ポート：外向きのTCPポート7615、443、80のいずれか
- ・ その他
パブリッククラウドライセンス：ドメイン「*.islonline.net」に対する接続許可
プライベートクラウド、オンプレミスライセンス：対象サーバーに対する接続許可

※製品の詳しい制限事項はリリースノートをご参照ください。

<https://www.islonline.jp/help/releasenote.html>

【注意】

ISL Online のリモートサポート製品は以下の 3 種類のプログラムがございます。

本マニュアルはワンタイム接続と常駐接続の両方が利用可能な「ISL Light」の操作方法をご案内しております。

- ・ ISL Light Desk : (ワンタイム専用) オペレーター用のプログラム
- ・ ISL Light Client : (ワンタイム専用) クライアント用のプログラム
- ・ ISL Light :
 - ワンタイム接続 (オペレーター用、クライアント用) と、
 - 常駐接続 (オペレーター用)が利用できるプログラム



➡ (補足)

オペレーターが ISL Light から接続を行った場合と、ISL Light Desk から接続を行った場合で、画面共有後に表示されるツールバーが異なります。

2 セットアップ

ISL Online アカウントの作成

ISL Light をご利用いただくには、操作する側のユーザー（以降：オペレーター）が ISL Online アカウントを取得している必要があります。接続される側のユーザー（以降：クライアント）はアカウントを取得する必要はありません。

ISL Online アカウントを取得していない場合は、以下の手順に従ってください。

■パブリッククラウドライセンスの場合

<https://www.islonline.jp/index.html> にアクセスして、[体験版お申し込み] を選択します。

■オンプレミスライセンスの場合

管理者に連絡して、ユーザーアカウントを発行してもらいます。

（オペレーターの場合は、ISL Conference Proxy の管理画面の [User management] で作成します。詳しい手順は『ISL Conference Proxy 管理者ページ操作マニュアル』をご参照ください）

起動プログラムのダウンロード

▼パブリッククラウドライセンスの場合

<https://www.islonline.net/start/ISLLight>

▼オンプレミスライセンスの場合

<http://サーバーのIPアドレスまたはホスト名:ポート番号/start/ISLLight>

例：DNS 名が「test.ocean.local」、ポート番号が「443」の場合

<http://test.ocean.local:443/start/ISLLight>

➡（注意）

常駐接続をご利用いただくには、あらかじめクライアントに ISL AlwaysOn をインストールしておく必要があります（詳細は『常駐接続（ISL AlwaysOn）マニュアル』をご参照ください）。

起動方法

取得した ISL Light のプログラムを実行します。



・インストールする

ISL Light のインストールを開始します。

・今すぐ起動する

ISL Light をインストールせず、すぐに利用を開始します。

➡（補足）

インストールは必須ではありませんが、インストールした場合は Windows の「すべてのプログラム（Mac はアプリケーション、Linux はアプリケーションを表示する）」からすぐに起動できるようになります。

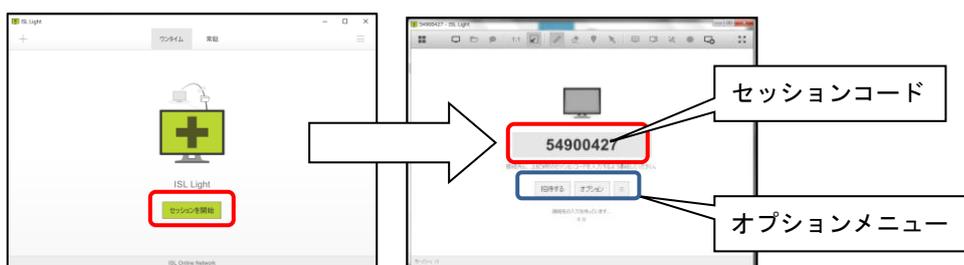
3 接続方法

3.1 ワンタイム接続

セッションコードの発行を行い、オペレーターとクライアントとの間で 1 度限りの接続を行う接続方法（ワンタイム接続）をご案内します。

■接続する側（オペレーター）

1. ISL Light を起動し、ユーザー名およびパスワードを入れて[ログイン]を選択します。
➡オンラインページで 2 段階認証を有効にしている場合は、続けてセキュリティコードを入力します（2 段階認証の詳細は『アカウントページマニュアル』をご参照ください）。
2. [セッションを開始する] を選択して、セッションコード（8 桁）を発行します。
3. クライアントにセッションコードを連絡します。（クライアント側でセッションコードを入力し、[接続する] を選択すると接続を開始します）



招待する	Email を送信してクライアントをセッションに招待します。
オプション	<ul style="list-style-type: none">・セッション開始直後の状態を選択します。 [画面を見る][画面を見せる][チャット]の中から選択できます。 (デフォルトでは[画面を見る]が選択されています)・接続オプション（チェック（緑）を入れると有効になります） -[デスクトップのコントロールを有効にする]（画面を見る側） -[品質を優先]
その他	<ul style="list-style-type: none">・編集： セッションに特定の名前をつけるほか、接続先のメールアドレスやメモを残すことができます。編集した内容は後から履歴ページで参照/再編集できます。・詳細：セッションに関する情報を確認します。

■接続される側（クライアント）

1. ISL Light を起動して [今すぐ起動する] を選択します。
2. 右上のボタンから [セッション参加] を選択します。
(Windows 版の場合は、[Ctrl+J]のショートカットで画面を開くことができます)

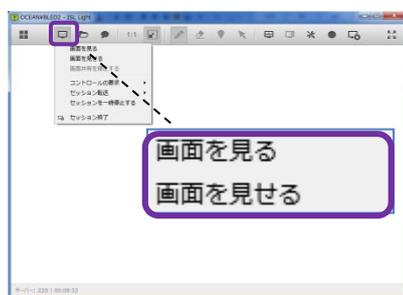


3. オペレーターから伝えられた 8 桁のセッションコードを入力し、[接続]を選択すると接続を開始します。

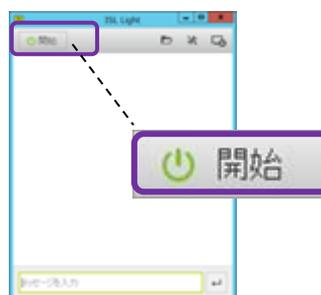


➡ (補足)

- ・初期設定ではセッション開始直後、自動で画面共有（クライアントの画面を[見る]）を開始します。
- ・セッション開始直後の動作は、オペレーターのセッションコード取得画面の[オプション]で変更できます。（詳細は前ページをご参照ください）
- ・セッション開始前にオペレーター側でセッション開始直後の状態を[チャット]に設定していた場合は、画面共有を開始する際にオペレーター、クライアントのどちらかで手動で実行する必要があります。



オペレーター



クライアント

➡ (補足) 接続先のサーバーについて

- ・接続先のサーバーは、起動時に画面の下に表示されます。（パブリッククラウドライセンスの場合は「ISL Online Network」、オンプレミスライセンスの場合は「サーバーの DNS 名または IP アドレス」が表示されます。）
- ・オンプレミスライセンスで複数サーバーをご利用の場合は、セッションコード取得後にサーバー名を選択して任意の接続先（サーバー）を変更できます。



➡ (補足) Light と Light Desk/ Client の互換性について

- ・Light と Light Desk (Light Client) には相互に動作互換性がございます。
- ・ISL Light から接続を行った場合と ISL Light Desk から接続を行った場合では、画面共有時のツールバーが異なります。（オペレーターが ISL Light Desk を使用する際の操作は『ワンタイム接続専用（ISL Light Desk & ISL Light Client）マニュアル』をご参照ください）

3.2 常駐接続

無人の常駐サーバーなどを対象に接続を行う場合の接続方法をご案内します。

➡ (注意)

常駐接続をご利用いただくには、接続される側（以降：クライアント）に ISL AlwaysOn をあらかじめインストールしておく必要があります。（詳細は『常駐接続（ISL AlwaysOn）マニュアル』をご参照ください）

[手順]

1. オペレーターの端末で、ISL Light を起動します。
2. ISL Online アカウント（ユーザー名、パスワード）を入力し[ログイン] を選択します。



ログイン情報を保存	チェックを入れると、アカウント情報が保存されます
パスワードを忘れた場合	アカウント作成時に登録したメールアドレスを入力して [送信] を選択すると、パスワード変更に必要なメールが送信されます

➡ (補足) 接続先のサーバーについて

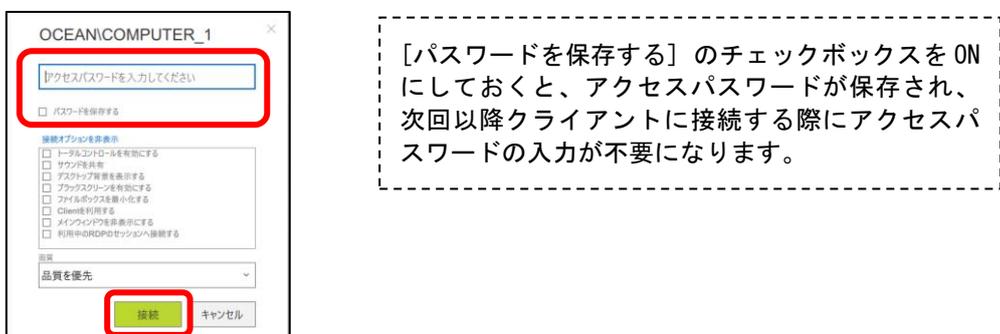
- ・パブリッククラウドライセンスの場合は「ISL Online Network」、オンプレミスライセンスの場合は「サーバーの DNS 名または IP アドレス」が表示されます。
- ・両ライセンスを保有している場合や複数のサーバーでご利用の場合は、ログイン前に接続先のサーバーを切り替えてご利用ください。



3. [常駐] タブを選択すると、ダッシュボード（クライアント一覧）が表示されます。「オンライン」状態の端末に対して接続を行うことができます。



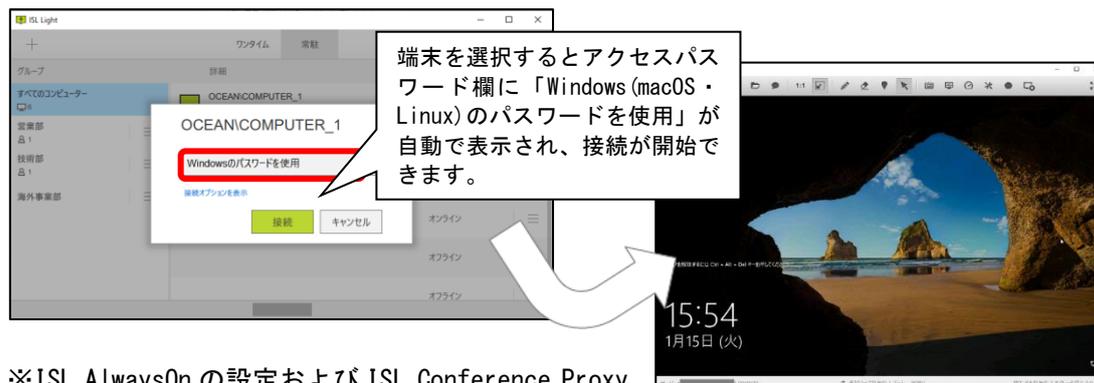
4. 接続先（クライアント）の端末を選択して、アクセスパスワードを入力します。
 [接続] を選択すると、クライアントに接続を開始します。



誤ったアクセスパスワードを連続して入力した場合にパスワード入力回数の上限が通知されますが、入力の禁止時間はありません。再度端末を選択することでアクセスパスワードを入力できます。

➡ (補足)

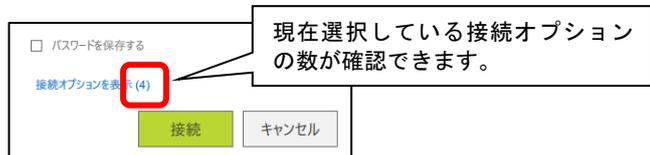
オンプレミスライセンスの場合のみ、アクセスパスワードの代わりに ISL AlwaysOn をインストールした端末の Windows/macOS/Linux ユーザーを使用して常駐接続を開始できます。



※ISL AlwaysOn の設定および ISL Conference Proxy の管理画面で本機能の利用が許可されている必要があります。詳細は『常駐接続 (ISL AlwaysOn) マニュアル』 『ISL Conference Proxy 管理者ページ操作マニュアル』をご参照ください。

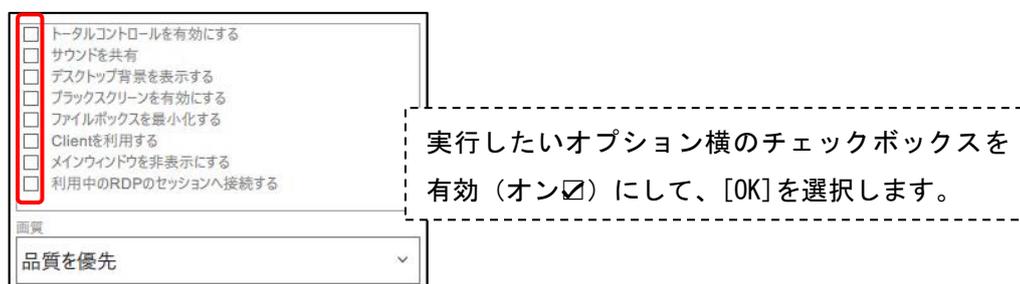
➡ (補足) 接続オプションについて

[接続] を選択して接続を開始する前に [接続オプションを表示] を選択して、接続後の画面共有の状態などを指定しておくことができます。



- ※接続オプションは、一度設定（有効・無効）を行った後は設定内容が保存されます。
- ※接続オプションは、各オプションの機能を利用するときのみ [有効] にしてください。（必要のないオプションは [無効] の状態にして接続を開始してください）

[接続オプション]



Client を利用する	接続後、接続先の画面上に ISL Light Client (メニュー画面) およびツールバーを表示します。デフォルトではオフになっています。【補足 1】セッションに他のオペレーターを招待する場合は有効にしてください。
ブラックスクリーンを有効にする*	接続後、接続先の画面をブラックスクリーンにして一時的に相手に操作内容を見せないようにします。【補足 2】
デスクトップ背景を表示する	接続後、接続先の端末のデスクトップ背景を表示します。
ファイルボックスを最小化する	接続後、接続先の端末のデスクトップ上の「ファイルボックス」を非表示にします（オンプレミスライセンスのみ利用できます）。
利用中の RDP のセッションへ接続する*	接続先の端末の RDP (Remote Desktop Protocol/リモート デスクトップ プロトコル) で接続中のセッションに対して、接続を行います（詳しい手順は、後述の【補足 3】をご参照ください）
メインウィンドウを非表示にする*	接続後、接続先の端末のデスクトップ上に接続中であることを通知するミニウィンドウ (右) が表示されます（「Client を利用する」のオプションが有効 (ON) になっている必要があります）。
サウンドを共有*	接続先の音声共有ができます。サウンドを共有するためには、接続先が音声出力デバイスを有している必要があります。
トータルコントロールを有効にする*	接続後、接続先の端末のマウスとキーボードの使用を禁止します（オンプレミスライセンスのみ利用できます）。
画質	接続後のデスクトップ共有画面を品質優先で表示します。



➡ * 接続先の端末が Windows の場合のみご利用いただけます。

➡ (macOS に関して) : 接続先の端末が Windows の場合のみ実行できます。

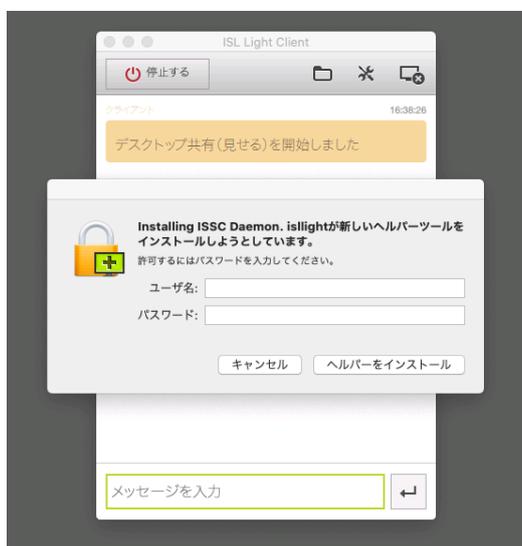
【補足1】「Client を利用する」オプションについて

- ・常駐接続では必要な各種プラグインをあらかじめ含んだプログラムを利用することで、接続先の PC への接続時間の短縮（高速化）を実現しています。高速接続を行うには[Client を利用する]のオプションは無効（OFF）になっている必要があります。
- ・高速接続を行った場合は ISL Light のツールバーおよび ISL Light Client のメニュー画面は表示されません。ISL Light Client の詳細は『ワнтаイム接続専用（ISL Light Desk & ISL Light Client）マニュアル』をご参照ください。
- ・高速接続を行った場合は接続先の画面上に「ファイルボックス」が表示されます。



ファイルボックスにファイル（フォルダー）をドラッグ&ドロップすると、接続先からファイル（フォルダー）を転送できます。接続する側からファイルを転送した場合は、接続先のデスクトップ上にファイルが保存されます。

- ・ macOS への接続時にこの接続オプションを使用すると、接続時にヘルパーツールのインストールを求められます。ヘルパーをインストールするとセッション再接続（P. 26 参照）がご利用いただけるようになります。



【補足2】「ブラックスクリーンを有効にする」オプションについて

オプションを有効（ON）にすると、画面共有と同時にクライアントの画面を黒表示にして、一時的に相手に操作内容を見せないようにすることができます。

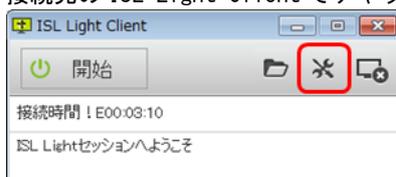
ブラックスクリーンは、ツールバーから再度ブラックスクリーンを実行するか、リモート PC 側で[ESC] キーを入力すると解除されます（解除されるまでに数秒かかります）。

➡（補足）

- ・クライアント端末が Windows の場合のみ実行できます。
- ・接続先が Windows 8 以上、Windows Server 2012 以上の場合、このオプションを有効にして接続を開始すると、OS のロック画面に接続される場合がございます。
- ・サインイン/サインアウト時やロック画面への切り替え、[Ctrl + Alt + Del] キー押下時など、Windows セッションが切り替わる際にブラックスクリーンが一時的に無効になります。
- ・ブラックスクリーン上にオペレーターのマウスカーソルの動きが表示されます。
- ・Windows 7 の端末では、スタートメニューやタスクトレイ選択時にブラックスクリーンが一時的に無効になります。
- ・Windows 8 以上、Windows Server 2012 以上の端末への接続で以下に該当する場合、ブラックスクリーンの実行には初回のみクライアント端末に専用のドライバーをインストールする必要があります。手順は以下をご参照ください。インストールには管理者権限が必要です。また、Windows 10 の大型アップデート（バージョン 1607 : Anniversary Update）以降に初期インストールされた端末では、利用できません。
 1. ISL AlwaysOn 4.4.2234.23 以前に対して[Client を利用する]の接続オプションを使用した常駐接続の場合
 2. 接続先が ISL Light Client 4.4.2116.19 以前を利用しているワンタイム接続の場合
（ISL Light の「セッション参加」から接続していない場合）

[手順]

1. 接続先の ISL Light Client でチャットウィンドウの[設定]を選択します。



2. メニューから[デスクトップ共有]を選択し、[ドライバーの再インストール]を選択します（インストール完了のメッセージは表示されません）。UAC を有効にしている場合は、インストール時にメッセージが表示される場合があります。[はい]を選択してインストールを許可してください。[OK]をクリックして画面を閉じます。



【補足3】「利用中のRDPのセッションへ接続する」オプションについて

[利用中のRDPのセッションへ接続する]のオプションを有効(ON)にすると、RDP (Remote Desktop Protocol/リモート デスクトップ プロトコル) で接続中のセッションに対し ISL AlwaysOnで接続できるようになります。以下の手順に従って接続を行います。

➡ (注意)

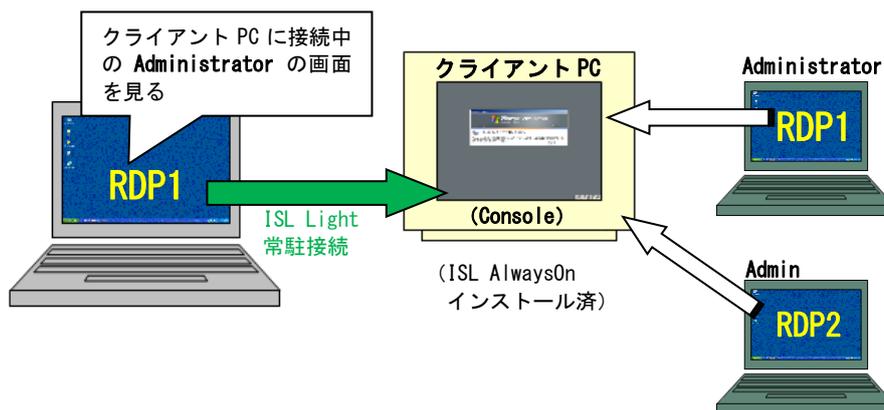
- ・ クライアントがWindows の場合のみ実行できます。
- ・ RDP 接続を行っている端末に接続した後にセッション再接続を有効にする場合は、[Client を利用する]の接続オプションも有効にして接続してください。
- ・ 接続対象となる RDP セッションのウィンドウが最小化されていると、接続が正常に行えません。

[手順]

1. 接続オプション内の [利用中のRDPのセッションへ接続する] にチェックを入れ、接続先の端末に接続を行います。

2.  アクセスパスワードを入力すると、RDP で接続中のセッションが選択できるようになります。
[Console (コンソールセッション)] 右の▼を選択して接続先のセッションを選択し、[OK] を選択します。

3. RDP で接続中のセッションに対して接続を開始します。



➡ (補足)

[利用中のRDPのセッションへ接続する]オプションを使用するには、接続される側(クライアント)の ISL AlwaysOn の詳細設定で [利用中のRDPのセッションへの接続を許可する] が有効になっている必要があります(初期値:有効)。

RDPのセッションへの接続 デフォルトのサーバー設定を有効にする

利用中のRDPのセッションへの接続を許可する

➡(補足) ダッシュボードについて



■スタート ([+])

・セッションを開始

セッションコードを取得して、ワンタイム接続を開始します。

・このコンピューターを登録

追加するグループを指定して、現在使用している端末を常駐接続のクライアントとして登録します。オペレーターの使用している端末が常駐接続のクライアントとして登録されている場合は、[このコンピューターを表示]に変わります。

・常駐接続をセットアップ

接続先に Email、リンク、セッションコードのいずれかを送信して、常駐接続のクライアントとして登録する許可を求めます。詳細は「6.10 常駐接続をセットアップする」をご参照ください。

・グループを作成

新規グループを作成し、端末を管理できます (6.11 参照)。

■メニュー (3.4 参照)

■検索：端末名、IP アドレス、タグによる接続先端末の検索ができます。

➡(注意) ISL Conference Proxy のバージョンが 4.4.2210.45 をご利用の環境では、IP アドレスによる端末の検索がご利用いただけません。

■画面の更新：コンピューターの一覧を更新します。

■アクション (3.3 参照)

■その他

常駐画面上部を右クリックして表示する項目を選択できます。



3.3 アクション

ワンタイム接続/常駐接続の画面上で、セッションまたはクライアントに対してさまざまなアクションを実行できます。

■ワンタイム接続（セッション接続中）



■常駐接続



➡（補足）

アクションで表示される項目は、セッションコードを取得する前/後か、セッションを開始しているか/していないかといった状態によって変わります。

■ワンタイム接続の場合（※）



■常駐接続の場合



※ セッションを開始すると、[招待する]⇒[共有画面を開く]に変わります。

■ワンタイム接続

招待する (共有画面を開く)	Email を送信して、セッションに招待します。 (セッション開始後は[共有画面を開く]に変わります)
URL をコピー※	セッション転送用の URL をクリップボード内にコピーします。 コピーした URL は、メモ帳などで貼り付けができます。
セッションコードをコピー※	セッションコードをクリップボード内にコピーします。 コピーしたコードは、メモ帳などで貼り付けができます。
編集	セッションに、固有の情報 (セッション名、接続先のメールアドレス、メモ) を追加できます。 ここで入力した情報は、オンラインページの履歴で確認できます。 (履歴の詳細は 6.9 をご参照ください)
オプション※	<ul style="list-style-type: none"> ・セッション開始直後の状態 (※) [画面を見る][画面を見せる][チャット]から選択できます。 ・接続オプション (チェック (緑) を入れると有効になります) - デスクトップのコントロールを有効にする ([画面を見せる]実行後、共有画面のキーボード、マウス操作をクライアント側に許可します) - 品質を優先 (品質を優先して画面共有を行います)
セッション情報	セッションの詳細情報を表示します (6.6 参照)。
セッション転送	セッションを転送します (6.7 参照)。
オペレーターを招待	セッションに他のオペレーターを招待します (6.8 参照)。
セッションを一時停止	セッションを一時停止します (6.6 参照)。
セッションを終了	セッションを終了します (6.6 参照)。

※ セッションコード取得後、クライアント側でセッションコードの入力を待っている場合などセッションがまだ開始されていない際にご利用いただけます。

■常駐接続

接続	端末に接続を開始します。
代替接続	RDP 接続、SSH 接続によるセッションを実行します (6.12 参照)。
エージェントアップグレード	端末にインストールされている ISL AlwaysOn を最新のバージョンへアップグレードします。
WOL 送信	Wake On LAN パケットを送信します。
編集	端末の情報 (通称、タグ) を編集します。「通称」を設定すると、リスト上に任意の名称で端末が表示されます。
共有	他のユーザー/ユーザーグループへ端末を共有します。(ユーザーグループへの共有は、オンプレミスライセンスのみ)
パスワードを変更	端末のメインパスワードまたは個別パスワードを変更します。 ➡ (注意) macOS の場合、オンラインページからパスワードの変更が正常に動作しません。パスワードを変更する場合は、ISL AlwaysOn の設定から直接変更してください。

所有者を変更	他のユーザーへ端末の所有権を引き渡します。所有者を変更すると、変更前のユーザーの端末一覧からは削除されます。 ※所有者に管理者（admin）は指定しないでください（オンプレミスライセンス・プライベートクラウドライセンスのみ）。
再起動/シャットダウン	端末を再起動またはシャットダウンします。 ➡（注意）対象の端末が macOS の場合、再起動/シャットダウンが正常に動作しません。
グループへ移動	端末を任意のグループに移動します。
ショートカットを作成	常駐接続先へのショートカットを作成します。本機能は ISL Light をインストールしている場合のみ利用できます。 ➡（注意）Linux ではご利用いただけません。
履歴	ログインしているユーザーが該当端末へ接続した履歴のみ確認できます。端末を共有しているユーザーの接続履歴は含まれません。 端末を共有している他のユーザーによる接続履歴を確認する手順につきましては、『常駐接続（ISL AlwaysOn）マニュアル』をご参照ください。
オプション	接続オプションを選択します（3.2 参照）。
削除	端末をリストから削除します。

3.4 メニュー

セッション参加	Ctrl+J
設定	Ctrl+,
ログ	
通知センター	
ページ情報	
ログアウト	Ctrl+M

➡（補足）

オプションで表示される項目は、ログインの有無やセッションコードを取得する前後かといった状態により変わります。

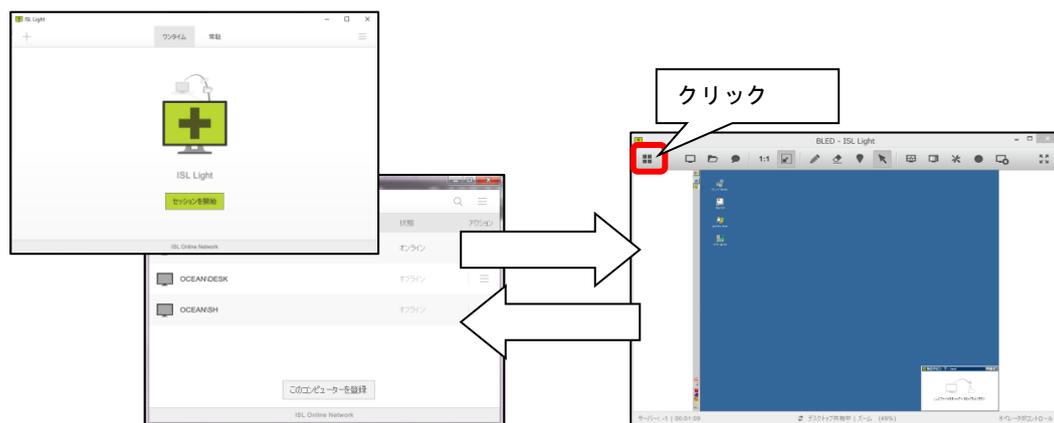
セッション参加	セッションコードを入力し、クライアントとして接続を行います。
設定	ISL Light の設定を行います（詳細は 7 設定をご参照ください）。
ログ	ISL Light のログを確認します。 （ログは ISL Light 起動後から記録を開始します）
通知センター	サーバーから通知が届いた際に内容を確認します。

バージョン情報	ISL Light のバージョンを確認します。
ログアウト	ISL Light からログアウトを行います。

➡ (補足)

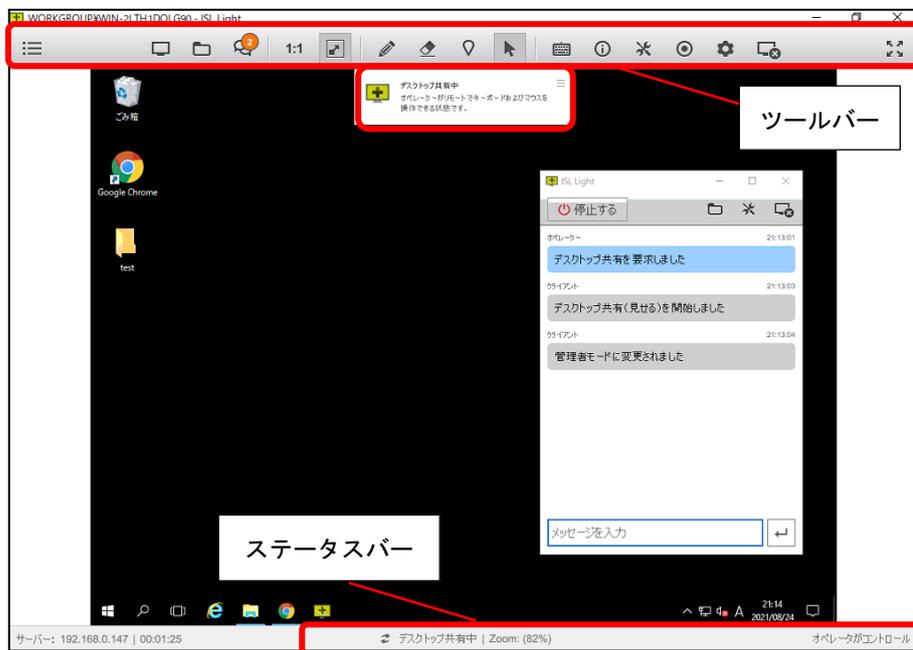
ダッシュボード（ワンタイム接続、および常駐接続のメニュー画面）は、セッション開始後、ツールバー上のボタンを選択して切り替える（デスクトップ共有画面の前に表示する）ことができます。

ダッシュボード

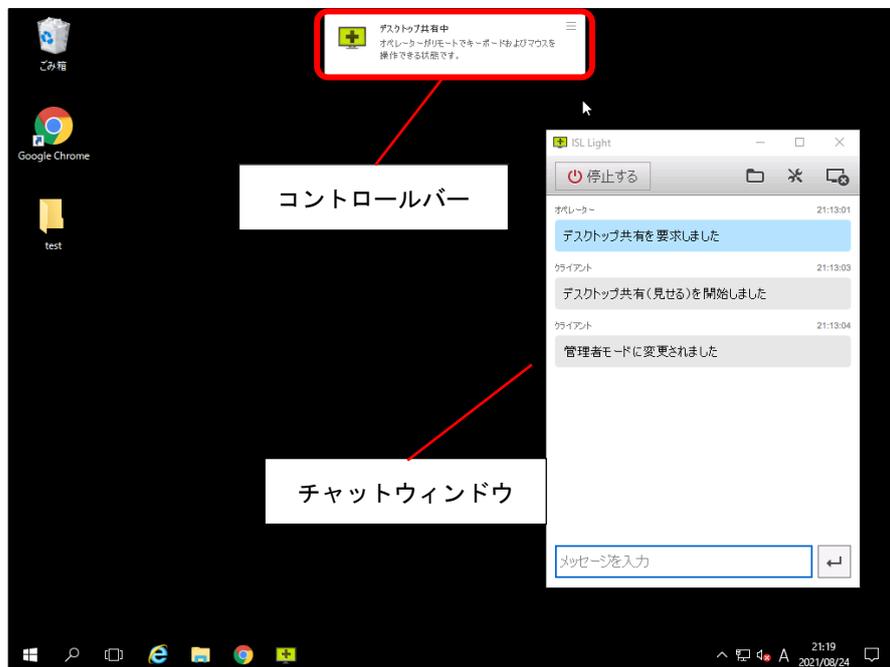


4 操作画面

■接続する側（オペレーター）の画面



■接続される側（クライアント）の画面



※上の画面はオペレーターがワンタイム接続を行い、画面を[見る]を実行したものです。
(オペレーターおよびクライアントはどちらも ISL Light から接続を行っています)

➡ (補足)

- ・ステータスバーでは接続先、ズーム、コントロールの状況などが確認できます。



- ・左下に「ダイレクトコネクト」と表示されているセッションはダイレクトコネクト機能が有効のセッションであることを表します (2024年12月現在パブリッククラウドのみ利用可。初期値：有効)。



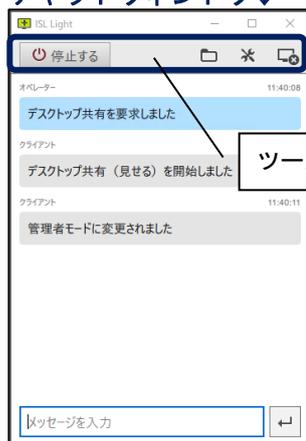
本機能はご利用中の製品バージョンやライセンス形態により利用可否が異なります。

詳細は以下の「ISL Online パブリッククラウド『ダイレクトコネクト』」をご参照ください。

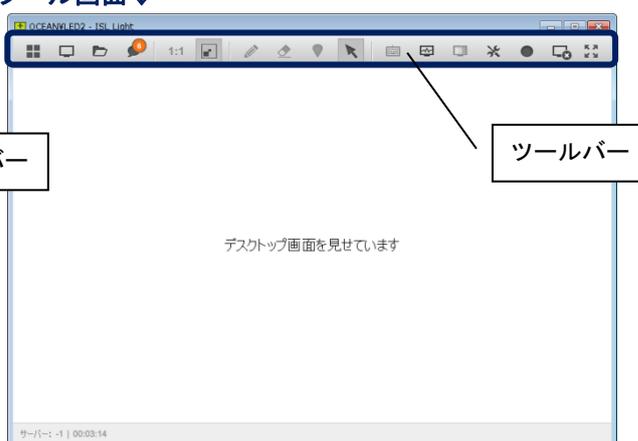
https://www.oceanbridge.jp/isl/general/manual/islonline_securityinformation.pdf

- ・ワンタイム接続を開始した場合、デフォルトの設定 (セッション開始直後の状態=画面を[見る]) ではクライアント側に「チャットウィンドウ」が表示されます。
- ・常駐接続を行った場合、デフォルトの設定ではチャットウィンドウは表示されません。
- ・ワンタイム接続で[見せる]を実行している間は、「ツール画面」が表示されます。
- ・「チャットウィンドウ」および「ツール画面」は、移動・サイズ変更・タスクトレイに格納できます。

チャットウィンドウ↓



ツール画面↓



- ・開始直後にクライアント側に表示されるチャットウィンドウ上部のツールバーでは、クライアント側からデスクトップ共有 (見せる) を開始・停止・再開できるほか、ファイル転送、設定 (ログの参照)、セッション終了を行うことができます。



- ・常駐接続で高速接続 (接続オプションで [ISL Client を利用する] にチェックが入っていない状態で接続) を行った場合は、クライアント側にファイルボックスが表示されません。

ファイルボックス



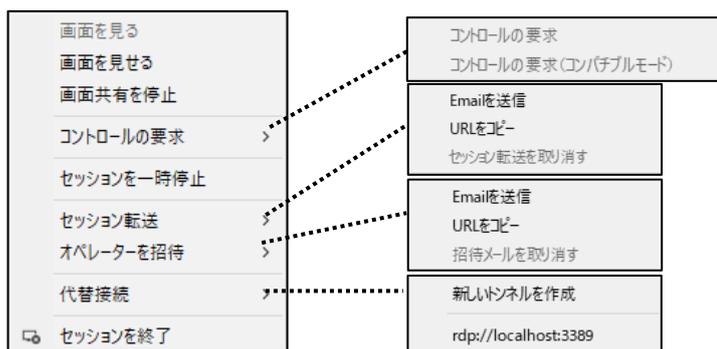
4.1 ツールバー



①ダッシュボードの表示/非表示

ダッシュボードを前面に表示します。

②画面共有



画面を見る	接続先の相手のデスクトップ画面を表示します。
画面を見せる	自身のデスクトップ画面を接続先に表示します。
画面共有を停止	デスクトップ画面の共有を停止します。
コントロールの要求	接続先にコントロールを要求します。 ※コンパチブルモード：接続元と接続先の双方でコントロールを行います（通常は双方からコントロールを行った場合接続先の操作が優先されます）。接続先の端末でF12キーを押下するとコントロールを拒否できます。
セッションを一時停止	セッション（接続）を一時停止します。
セッション転送 オペレーターを招待	<ul style="list-style-type: none"> • Email を送信 ダイアログ上にメールアドレスを入力し、Email を送信してセッションに招待します（オンプレミスライセンスの場合、別途メールサーバーの設定が必要です）。規定のメールソフトを使用して送信することも可能です。 • URL をコピー セッション転送・招待用の URL をクリップボード内にコピーします。コピーした URL はメモ帳などに張り付けできます • セッション転送/招待メールを取り消す [Email を送信][URL をコピー]で取得した URL を無効にします（6.7 セッションを転送する、または 6.8 オペレーターを招待する 参照）。
代替接続	ISL Light 上から RDP 接続、SSH 接続によるセッションを実行します（6.12 参照）。
セッションを終了	セッション（接続）を終了します。

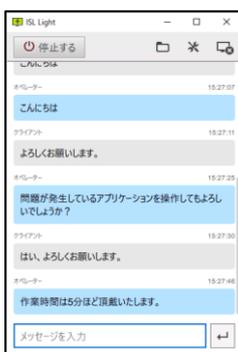
③ファイル転送

ファイルの送信および受信を行います。また、ISL Light 4.4.2031.107以降では、ファイルマネージャーを用いて接続先のディレクトリを操作することが可能です。（具体的な操作方法は6.1と6.2をご参照ください）

➡（参考）

オンプレミスライセンスでは、ISL Conference Proxyの管理画面でファイルやフォルダの転送（送信、受信）や、ファイルマネージャーの使用を禁止できます。詳しくは『ISL Conference Proxy 管理者ページ操作マニュアル』をご参照ください。

④チャット



チャットウィンドウを表示します。

テキストおよび音声、ビデオを使用してチャットできます。
（具体的な操作方法は6.4をご参照ください）

➡（補足）

常駐接続でチャットをご利用になる場合は、接続オプション [Client を利用する] を有効にして接続してください。

⑤モニター

接続先がマルチディスプレイの場合、モニターの選択ボタンおよびマルチウィンドウ表示ボタンが表示されます。



⑥ズーム

実寸（1:1）、または共有画面の解像度に合わせます。



⑦描画ツール



ペン	ペンで書き込みを行います（6.3 参照）。 ※デスクトップ画面を[見る][見せる]側の双方から書き込みできます。 ※書き込みはデフォルトで 10 秒後に自動的に消去されます。
消去	ペンによる書き込み、ポインタを消去します。 ※右クリックすると「5 秒」「10 秒」「手動」の中から、消去のタイミングを設定できます。
ポインタ	ポインタ（スタンプ）を押印します。 ※初期設定の場合、ポインタは 10 秒後に自動的に消去されます。
画面操作	マウスポインタに切り替えて画面操作を行います。

⑧キーボード

リモートの IME を優先	接続先の IME を優先して使用します（入力したキーが Unicode で接続先に送信されます）。
ローカルの IME を優先 ^{※1}	接続元の IME を優先して使用します。接続先の入力言語は、マウス操作で切り替えられます。
自動（ ）	Windows の場合、初期設定で選択されています。 ISL Light を操作している端末の IME が日本語の場合、自動でリモートの IME を優先します。
Ctrl + Alt + Del ^{※2}	クライアントに[Ctrl + Alt + Del]を送信します。 （管理者モードが有効な場合のみ実行できます）
Win + L ^{※2}	[Windows + L] の操作（ロック）を実行します。
Win + R ^{※2}	[Windows + R] の操作（ファイル名を指定して実行）を実行します。
クリップボードを利用	オペレーターとクライアント間のクリップボードの共有（保存したテキストの貼り付け）を許可/禁止できます。
Print Screen	共有画面のスクリーンショットを取得します。 （取得したスクリーンショットは、実行した端末のクリップボード内に保存されます。ペイントソフトなどを起動して貼り付けを行ってください）
クリップボードのテキストを入力 ^{※3}	接続元のクリップボードのテキストを Unicode で接続先に送信します。OS のログイン画面にパスワードを入力する際に利用します。送信可能な文字数の上限は 1000 バイトです。

※1 接続元と接続先の入力モードが「日本語」の場合、[Shift]+他のキーを同時に押下すると接続先で[Shift]キーが押された状態が続きます。再度[Shift]キーを押すことで解除できます。

※2 クライアントが Windows の場合のみ実行できます。

※3 クライアントが macOS の場合、英数字などの 1 バイト文字のみ送信可能です。

オペレーターが Linux OS でクライアントが Windows の場合、全角文字をクリップボー

ドで共有できません。

➡ (補足) 「クリップボードを利用」について

- ・ オンプレミスライセンスの場合、ISL Conference Proxy の管理画面であらかじめクリップボードを無効 (禁止) にしておくことができます。詳細は『ISL Conference Proxy 管理者ページ操作マニュアル』をご参照ください。

⑨ システム情報

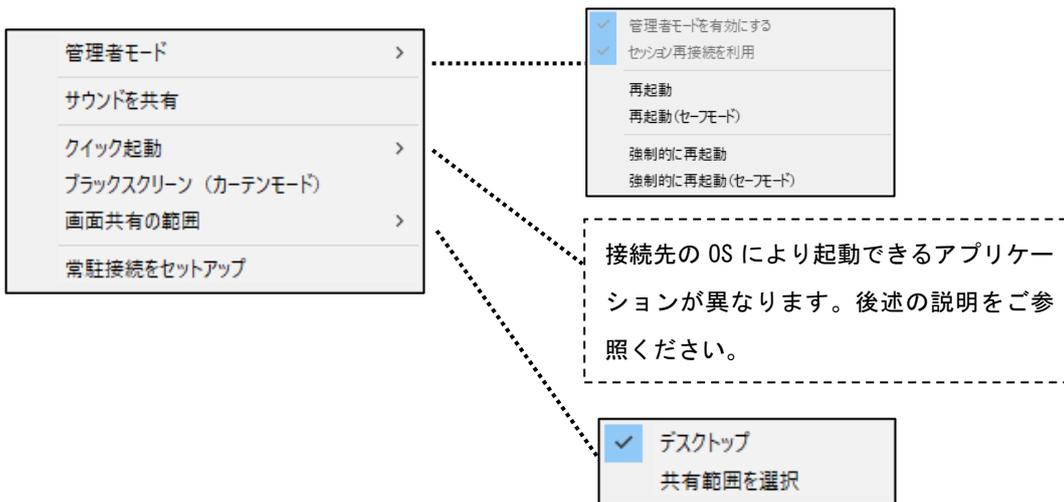


接続先の主なシステム情報を取得します。

ログを取得	接続先の ISL Light のログを取得します。
詳細情報を取得	接続先の詳細なシステム情報を取得します。(この機能は主にトラブルシューティングで使用します)

⑩ ツール

接続先の再起動やブラックスクリーンなどの機能を実行します。



■ 管理者モード **WIN**

管理者モードを有効にすると、クライアント端末 (Windows) 上に表示された UAC 画面に対する操作やセッション再接続を有効にできます。

➡ (補足)

クライアントが macOS で ISL Light からワнтаイム接続を開始した場合は、デスクトップ共有を行った直後に自動で「管理者モード」が有効になります。

※セッション再接続について

セッション再接続を有効にすると、オペレーター側で「再起動」「シャットダウン」「スタンバイ」「ログオフ」「休止状態」を実行しても、クライアント端末の起動後

(ログイン後)に再度同じセッションに接続されます。また、クライアント端末が Windows の場合は、以下の方法で再起動を行うことができます。

再起動	クライアント端末の再起動を行います。
強制的に再起動	強制的にクライアント端末の再起動を行います。
再起動 (セーフモード)	セーフモードでクライアントの再起動を行います。
強制的に再起動 (セーフモード)	強制的にセーフモードでクライアントの再起動を行います。

➡ (補足)

- ・常駐接続では、セッション再接続が自動で有効になります。

■ サウンドを共有

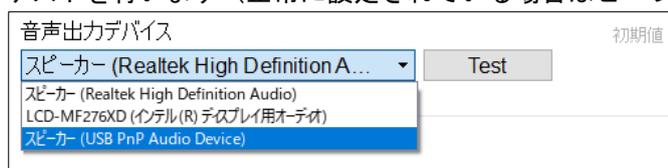
Windows OS への接続時に、接続先の音声共有ができます。サウンドを共有するためには、接続先が音声出力デバイスを有している必要があります。

※ワンタイム接続ではクライアントが ISL Light を使用してセッションに参加、常駐接続では接続オプションにチェックを入れて接続を行う必要があります。

オペレーターの音声出力デバイスの設定方法は、以下をご参照ください (セッションを開始する前に行ってください)。

[手順]

1. [メニュー]-[設定]を選択します。
2. [音声およびビデオ]を選択します。
※「初回のセッションが開始されるまで、設定は表示されません。」と表示される場合は一度ワンタイム接続または常駐接続を開始し、セッションを終了して再度設定画面を開いてください。
3. [音声出力デバイス]から使用するデバイスを選択後、[Test]を選択して音声確認テストを行います (正常に設定されている場合はビーブ音が聞こえます)。



4. 設定画面を閉じます。

■ クイック起動

接続先の OS に搭載されているシステムアプリケーションを起動します。起動できるアプリケーションの種類は、OS により異なります。

接続先が以下の条件に当てはまる場合にご利用いただけます。

《ワンタイム接続》・ ISL Light 4. 4. 2234. 73 以上

《常駐接続》・ ISL AlwaysOn 4. 4. 2234. 53 以上

※接続先が Windows 版 ISL Light Client または ISL Light for iOS/Android のスマー

トフォンアプリの場合、本機能はご利用できません。

※システム情報からも同様の機能が起動できます。

■ Windows

プログラムと機能
コマンドプロンプト
コントロールパネル
デバイスマネージャー
ディスクの管理
ディスプレイの設定
イベントビューアー
エクスプローラー
端末をロック
ネットワーク接続
電源オプション
印刷の管理
レジストリエディター
ファイル名を指定して実行
設定
タスク マネージャー

■ macOS

アクティビティモニタ
アプリケーション
コンソール
ディスクユーティリティ
ディスプレイ
Finder
強制終了
端末をロック
ネットワーク
プリンターとスキャナー
デスクトップを表示
Spotlight 検索
システム情報
システム環境設定
ターミナル
ユーティリティ

■ Linux

ターミナル

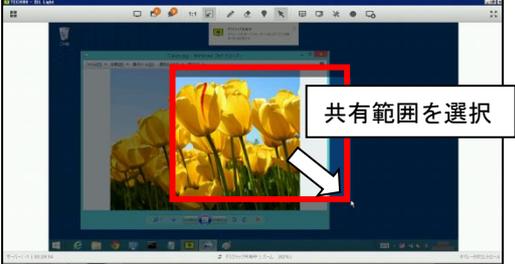
■ ブラックスクリーン（カーテンモード） **WIN**

接続先の端末画面を黒画面にして、一時的に相手に操作内容を見せないようにします。

ブラックスクリーンの詳細は、P.13「ブラックスクリーンを有効にする」オプションについて をご参照ください。

■ 画面共有の範囲 **WIN**

画面共有（見る側）の範囲を指定します。

デスクトップ	画面共有の範囲をデスクトップ全体に指定します。 (デフォルトの指定範囲はデスクトップ全体となっています)
共有範囲を選択	画面共有の範囲を任意に指定します。 [手順] 1. 画面共有開始後、[共有範囲を選択] を選択します。 2. マウスをドラッグして、共有範囲を選択します。  3. 選択した範囲のみが画面上に表示されます。

■ 常駐接続をセットアップ

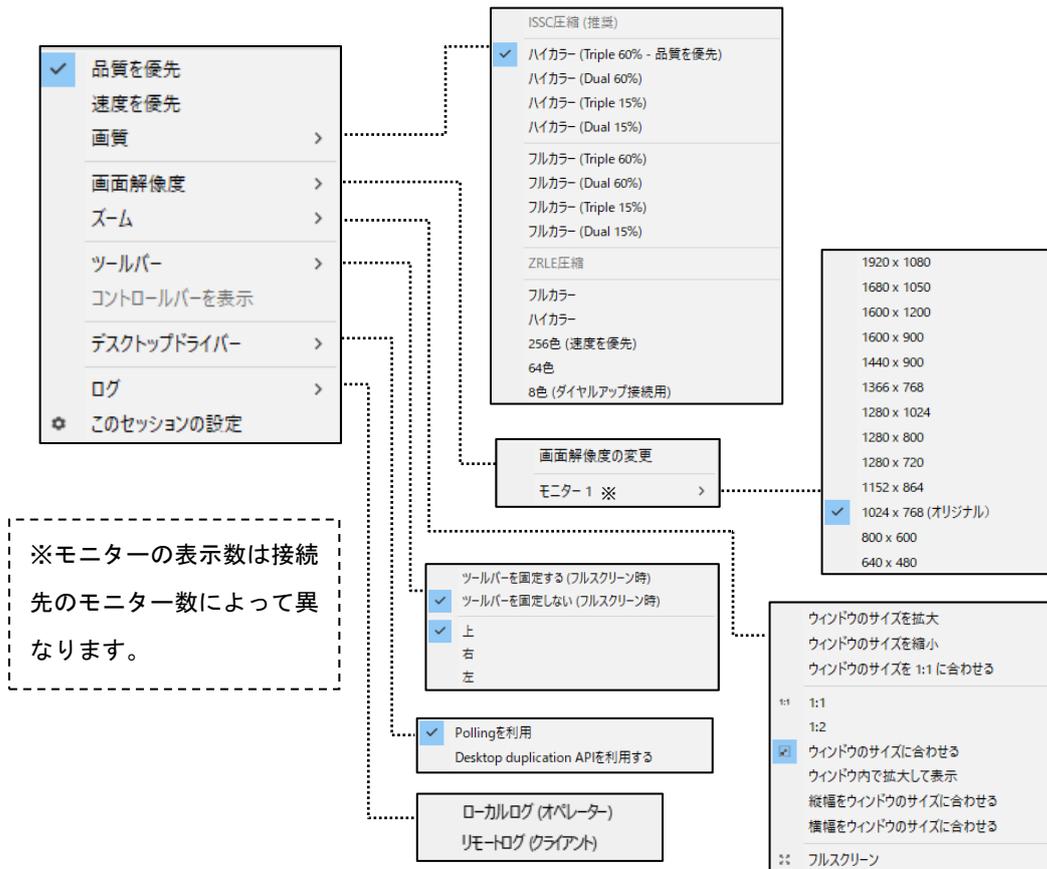
接続先の端末に ISL AlwaysOn のインストールを行います。(6.10 参照)

⑪レコーディング

レコーディングを行います。(6.5 参照)

⑫設定

画質・表示サイズ・セッションに関する設定などを行います。



■ 品質を優先

接続先のデスクトップ共有画面を品質優先で表示します。

■ 速度を優先

接続先のデスクトップ共有画面を速度優先で表示します。

■ 画質

「品質を優先」「速度を優先」を含むすべてのオプションが選択できます。

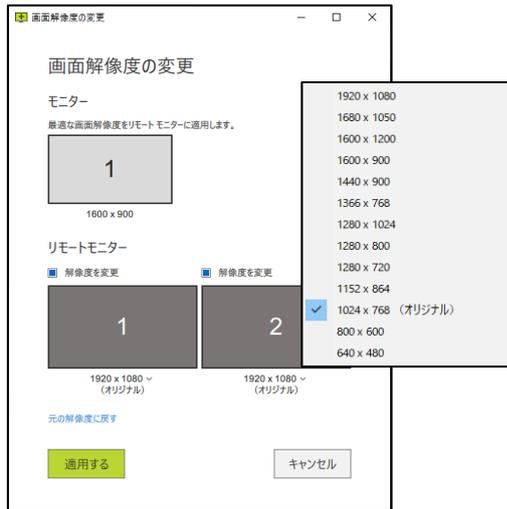
■ 画面解像度

接続先のモニターの解像度を変更できます。接続先が以下の条件に当てはまる場合にご利用いただけます。

《ワнтаイム接続》・ISL Light 4.4.2234.73 以上

《常駐接続》・ISL AlwaysOn 4.4.2234.53 以上

※接続オプション[Client を利用する]利用時は、本機能はご利用になりません。



セッションを終了すると、接続先のモニター解像度は接続前の状態に戻ります。

■ ズーム

共有画面の画質およびサイズを調整します。

➡ (補足)

Windows 版の場合、フルスクリーンは[Ctrl + Esc]のショートカットでも切り替えができます（スタート画面も同時に起動します）。

■ ツールバー

ツールバーの表示に関する設定を行います。

ツールバー↓

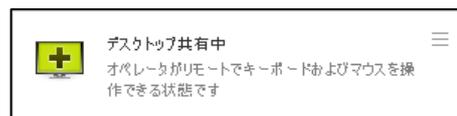


ツールバーを固定する/固定しない	フルスクリーン実行時のツールバーの表示/非表示を設定します。
上 左 右	「上」「左」「右」の中から、ツールバーの表示位置を選択します。

■ コントロールバーを表示/隠す

コントロールバーの表示/非表示を設定します。コントロールバーは、自分が[見せる]側の場合のみ表示されます。

コントロールバー↓



■ デスクトップドライバー

画面共有に使用するデスクトップドライバーを選択します。

➡(注意)

選択をしてもチェックが表示されない場合があります。

Windows 8 以降	Desktop duplication API または Polling が選択できます。
Windows 8 未満	Polling が選択できます。
macOS	Hooks が選択できます。
Linux	選択出来るドライバーはありません。

■ システム情報

接続先のシステムに関する情報や、ISL Light のログを取得します。

ローカルログ (オペレーター)	オペレーターの ISL Light ログを取得します。
ローカルログ (クライアント)	クライアントの ISL Light ログを取得します。

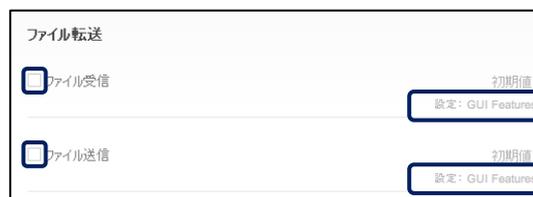
■ このセッションの設定

接続中のセッションに関する設定画面を開きます。

画面操作	クリップボードの利用
	デスクトップ共有 (見せる)
	デスクトップ共有時 (見せる) の操作
	デスクトップ共有 (見る)
	デスクトップ共有 (見る) の操作
ファイル転送	ファイルマネージャー
	ファイル受信
	ファイル送信
ポート転送	localhost 以外へ及び localhost 以外からのトンネル作成
	クライアントからのポート転送
	オペレーターからのポート転送
レコーディング	レコーディング

➡(参考)

オンプレミスライセンスのサーバー (ISL Conference Proxy の管理画面) で ISL Light の許可/禁止を設定している場合は、こちらで内容を確認できます。



⑬セッション終了

接続中のセッションを終了します。

⑭フルスクリーン

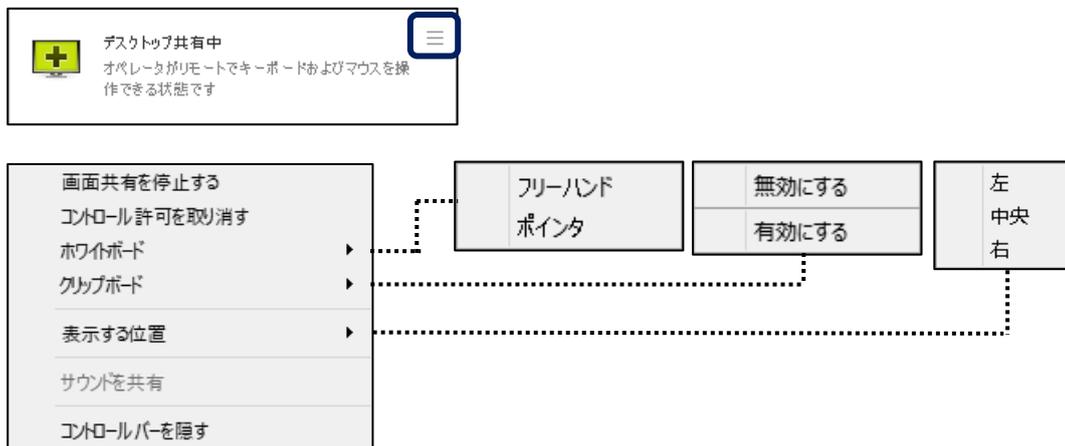
共有画面をフルスクリーンで表示します。

➡(補足)

オペレーターが Windows 版の場合、フルスクリーンは [Ctrl + Esc] のショートカットでも切り替えができます。

4.2 コントロールバー

現在の共有状態が確認できるほか、オプションを選択して画面共有の停止やコントロール許可の取り消し、描画ツール（ペン、ポインター）などが利用できます。コントロールバーは、自分が[見せる]側 の場合のみ表示されます。



画面共有を停止する	デスクトップ共有を停止します。
コントロール許可を取り消す	デスクトップ画面を見せている相手のコントロール（キーボードおよびマウスの操作）を禁止します。
ホワイトボード	フリーハンド：ペン（青）で書き込みを行います。 ポインタ：ポインタ（スタンプ）を押印します。 ※ホワイトボードは [Esc] キーで解除できます。
クリップボード	無効（有効）にする： 操作する側のローカル端末上でコピーしたテキストを、操作される側の端末上で貼り付けできない（できる）よう設定します。
表示する位置	[左][中央][右]の中から、コントロールバーの表示位置を選択します。
サウンドを共有	オペレーターへ音声共有します。
コントロールバーを隠す	コントロールバーを非表示にします。

➡（補足）

コントロールバーは[設定] - [コントロールバーを表示（隠す）] で表示/非表示の切り替えができるほか、ドラッグして画面上部で左右に移動できます。

5 終了方法

接続（セッション）の終了手順をご説明いたします。

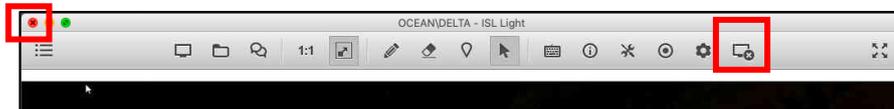
オペレーターとして接続時

ツールバーの [セッション終了]、またはウィンドウ端の [×] を選択します。

[Windows]・[Linux]



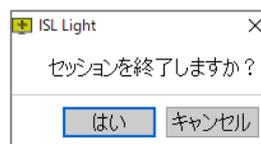
[macOS]



【ワンタイム接続時】

セッションの終了確認メッセージが表示されます。

[はい] を選択するとセッションが終了します。



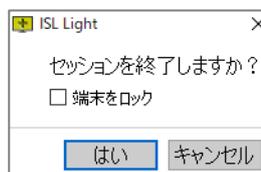
【常駐接続時】

セッションの終了確認メッセージが表示されます。

[はい] を選択するとセッションが終了します。

リモート端末をロックして終了する場合には、

[端末をロック]にチェックを入れてから[はい]を選択してください。



➡ (補足)

リモート端末のロックは、ISL Light 4.4.2031.107以降、かつ ISL AlwaysOn4.4.2031.44以降でご利用いただけます。

クライアントとして接続時

チャットウィンドウ端の [×] を選択します。



➡ (補足)

[停止する] は、デスクトップ画面の共有のみを停止します。セッションは終了しません。

セッションの終了確認メッセージが表示されます。

[はい] または [終了] を選択するとセッションが終了します。



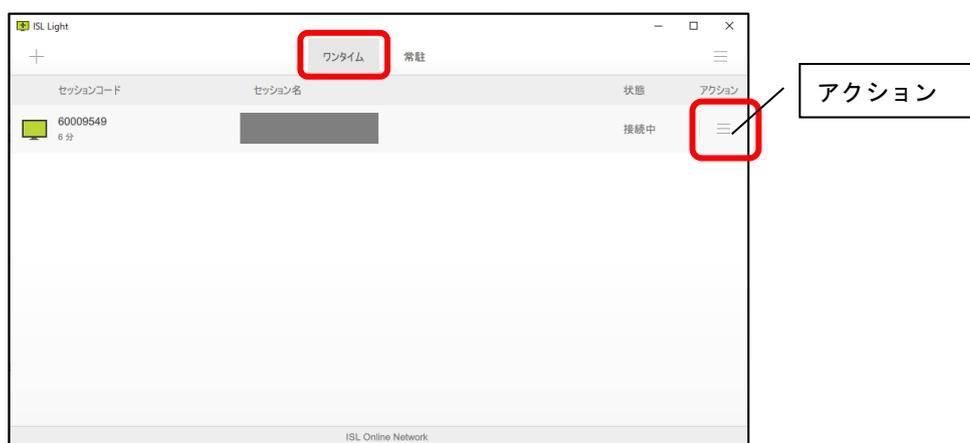
➡ (補足)

オペレーターが[画面を見せる]実行後は、チャットウィンドウが共有画面になります。「オペレーターとして接続時」同様、共有画面でセッションを終了することができます。

ダッシュボードから強制終了する

ダッシュボード上でセッションを強制終了することができます。

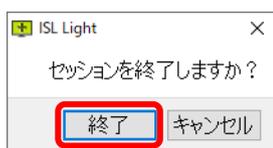
1. ダッシュボードを開きます。
(ダッシュボードはセッション開始後、ツールバー上のボタンを選択して、共有画面の前面に表示することができます)
2. [ワンタイム] のタブを選択します。
3. 現在使用中のセッションの一覧が表示されます。
任意のセッションの右側にあるアクションを選択します。



4. [セッションを終了] を選択します。



5. セッションの終了確認メッセージが表示されます。
[終了] を選択するとセッションを強制終了します。



6 具体的な操作

6.1 ファイル（フォルダー）を転送する

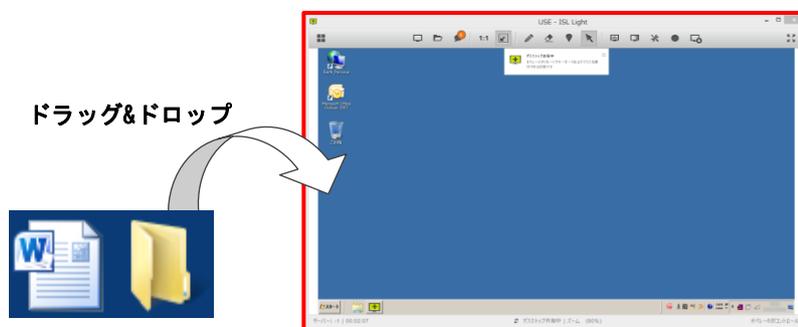
セッションを開始すると、ファイルやフォルダーの転送（送信・受信）ができます。

➡（注意）

- ・Linuxでファイルを受信できない場合は、ファイルの保存先を変更してから受信してください。

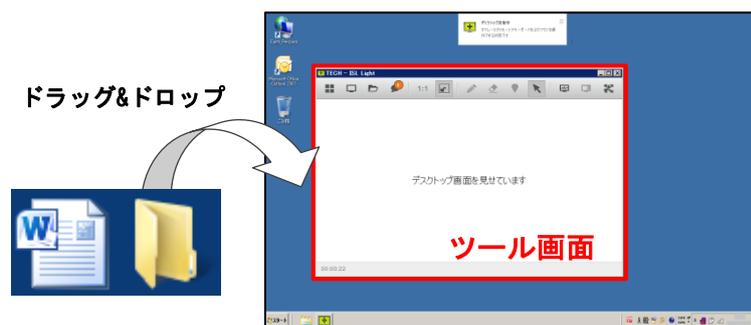
【方法1】共有画面上にドラッグ&ドロップする

画面を見る側から共有画面上にファイル/フォルダーをドラッグ&ドロップします。



【方法2】ツール画面上にドラッグ&ドロップする

画面を見せる側からツール画面上にファイル/フォルダーをドラッグ&ドロップします。



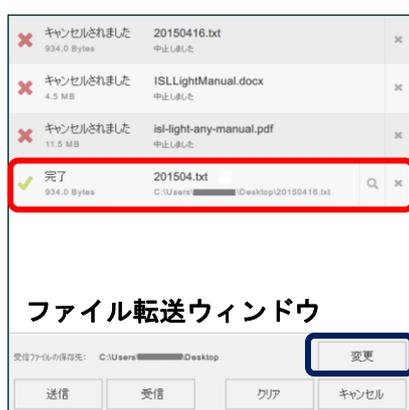
【方法3】共有画面のツールバーを利用する

共有画面のツールバー内の[ファイル転送]から送信します。



[手順]

1. ツールバー内の [ファイル転送] を選択します。
2. [ファイルを送信] または [ファイルを受信] を選択します。
3. 転送するファイル/フォルダーを指定し、[開く] を選択します。
(受信する場合は、相手先にファイルを指定するウィンドウが表示されます)
4. ファイル/フォルダーの転送が開始されます。
※[転送内容を表示]を選択すると、転送中の状態を確認できます。
また[変更]を選択すると、ファイル受信時の保存先が変更できます。



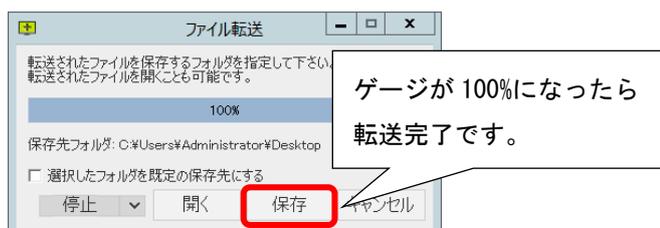
➡(補足)

- ・ [クリア] を選択すると、ファイル転送の履歴が削除されます。
- ・ ファイル転送ウィンドウ上に直接ファイル (フォルダー) をドラッグ&ドロップして転送することもできます。

➡(補足)

複数のファイル/フォルダーをまとめて転送した場合は、転送したファイル/フォルダーの中から代表で1ファイルの名前がファイル転送のウィンドウ上に表示されます。

5. 受信する側のデスクトップ上にメッセージウィンドウが表示されます。
[保存] を選択して転送されたファイル/フォルダーを保存します。
(保存先は [参照] を選択して変更できます)



【方法4】チャットウィンドウから転送する

クライアントとしてセッション接続時は、以下のいずれかの方法でチャットウィンドウからファイル/フォルダーを転送します。

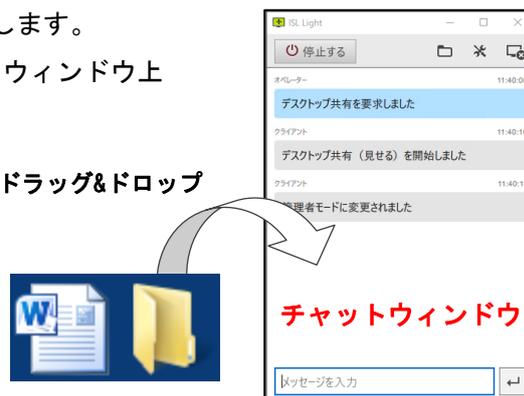
➡(補足)

オペレーターが[画面を見せる]実行後は、チャットウィンドウが共有画面になります。【方法1】 - 【方法3】のいずれかの手順でファイル/フォルダーを転送してください。

■チャットウィンドウ上にドラッグ&ドロップします。

(ファイル転送(送信・受信)が完了すると、ウィンドウ上に転送完了のメッセージが表示されます。)

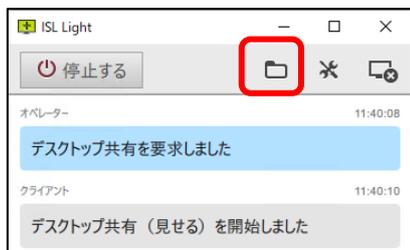
ドラッグ&ドロップ



■チャットウィンドウのツールバー内の [ファイル転送] から送信します。

[手順]

1. ツールバー内の [ファイル転送] を選択します。



2. [転送内容を表示]を選択します。
3. [送信] または [受信] を選択します。
4. 転送するファイル/フォルダーを指定し、[開く] を選択します。
(受信する場合は、相手先にファイルを指定するウィンドウが表示されます)

5. ファイル/フォルダーの転送が開始されると、転送先のデスクトップ上に以下のウィンドウが表示されます。



6. [保存] を選択して転送されたファイル/フォルダーを保存します。
(保存先は [参照] を選択して変更できます)

【方法 5】ファイルボックスを利用する（常駐接続）

ファイルボックスにファイル/フォルダーをドラッグ&ドロップします。

転送したファイル（フォルダー）はオペレーターのデスクトップに保存されます。



常駐接続で高速接続（接続オプションで [ISL Client を利用する] にチェックが入っていない状態）で接続を行った場合は、クライアントのデスクトップに「ファイルボックス」が表示されます。（接続オプションの詳細は P11 をご参照ください）

- ➡（補足）既存ファイル/フォルダーの置き換えについて
送信した先に同じ名前のファイル/フォルダーが存在していた場合は、保存する際にファイル/フォルダーの上書きまたは別名保存の選択ができます。
- ➡（注意）以下の製品バージョンをご利用の場合、常駐接続利用時にファイルサーバー等からのドラッグ&ドロップが失敗する場合があります。一度接続先のデスクトップ上にコピーして、ファイル転送をご利用ください。

【対象製品バージョン】

ISL Light 4. 4. 2116. 177 以上、ISL AlwaysOn 4. 4. 2234. 23 以上

6.2 ファイルマネージャー

ISL Light 4.4.2031.107 以降では、ファイルマネージャーを使用して、ファイル転送の他、接続先のフォルダーやファイルに対して操作を行うことが可能です。

➡ (補足)

・ワンタイム接続では、クライアント側が以下のいずれかを利用している場合にご利用いただけます。

- ・ ISL Light 4.4.2031.107 以降
- ・ Windows 版の ISL Light Client 4.4.2116.42 以降
- ・ macOS 版の ISL Light Client 4.4.2031.12 以降
- ・ Linux 版の ISL Light Client 4.4.2116.19 以降

・常駐接続では、接続先に ISL AlwaysOn 4.4.2031.44 以降をインストールする必要があります。

➡ (注意)

・Linux でファイル一覧を表示できない場合は、ファイルを表示するディレクトリを選択してください。

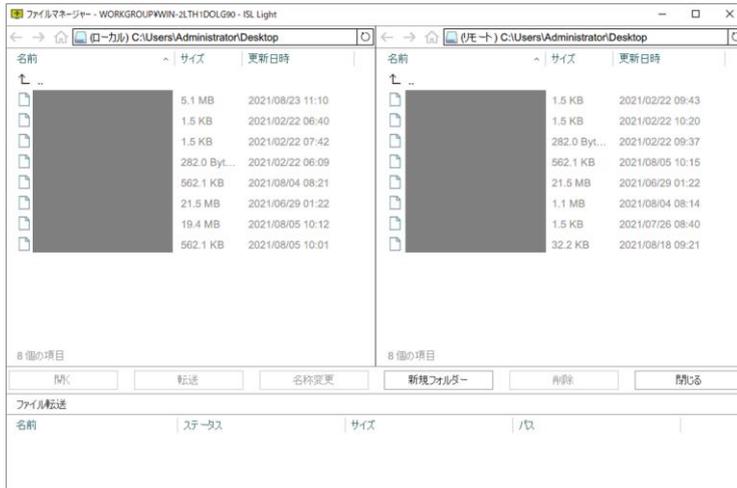
・Linux でファイルを受信できない場合は、ファイルの保存先を変更してから受信してください。

➡ (参考)

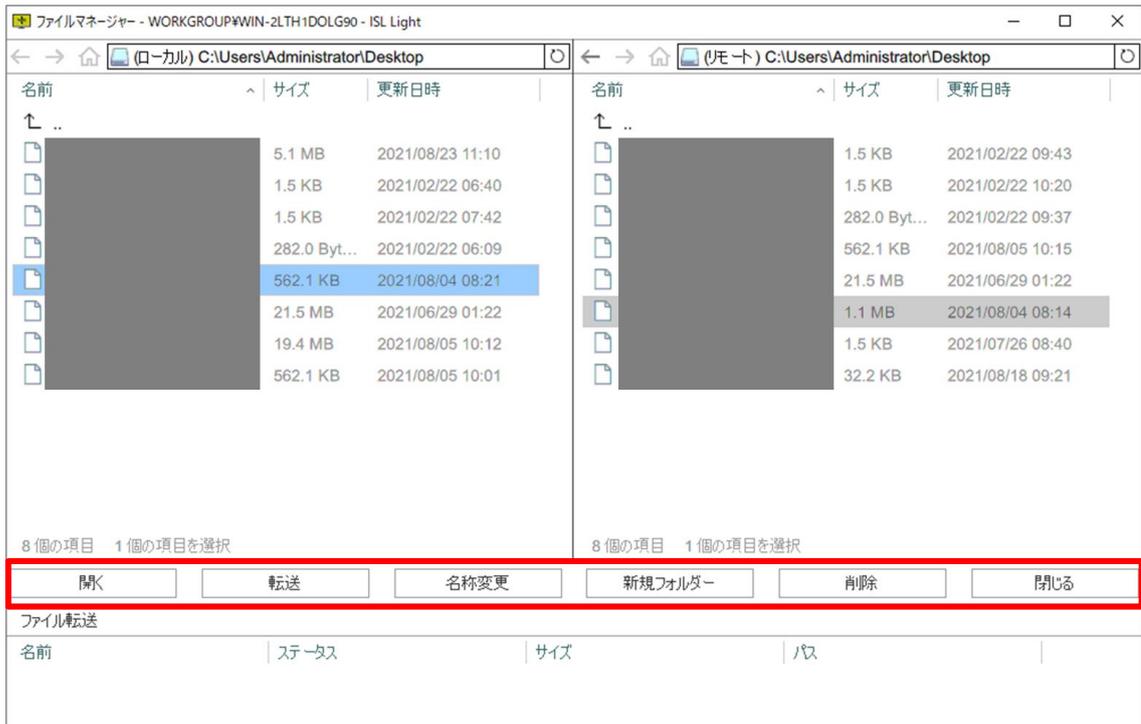
オンプレミスライセンスでは、ISL Conference Proxy の管理画面でファイルマネージャーの使用を禁止できます。詳しくは『ISL Conference Proxy 管理者ページ操作マニュアル』をご参照ください。

[手順]

1. 共有画面のツールバー内の[ファイル転送]を選択します。
2. [ファイルマネージャー]を選択します。
3. ファイルマネージャーが表示されます。クライアント側で、オペレーターからのファイル管理を許可します。(常駐接続時には、接続先の端末のファイル管理が自動で許可されます)
4. オペレーターのローカル端末と、接続先の端末のデスクトップに保存されているフォルダーやファイルの一覧が表示されます。また、クライアント側にはファイル転送のイベントログが自動で表示されます。(常駐接続時には、イベントログが表示されません)



ファイルマネージャーでは、以下の機能が利用可能です。



<p>開く</p>	<p>フォルダーを選択して[開く]を選択すると、選択したフォルダーを開き、フォルダー内のファイル/フォルダーの一覧を表示します。ファイル/フォルダー一覧の一番上の[...]を選択して[開く]を選択すると、現在のディレクトリから一つ上のディレクトリへ移動できます。</p> <p>※直接フォルダーを右クリックして[開く]を選択するか、フォルダーをダブルクリックして実行することも可能です。</p>
<p>転送</p>	<p>選択したファイル/フォルダーを転送します。(ローカルフォルダー内を選択時には送信、リモートフォルダー内を選択時には受信します)</p> <p>※直接ファイル/フォルダーを右クリックして[転送]を選択して実行することも可能です。</p>

名称変更	選択したファイル/フォルダーの名称を変更します。 ※直接ファイル/フォルダーを右クリックして[名称変更]を選択して実行することも可能です。
新規フォルダー	ローカル側(左)のウィンドウ、もしくはリモート側(右)のウィンドウ内を選択して[新規フォルダー]を選択すると、指定した側のディレクトリに新しいフォルダーが作成されます。 ※直接ウィンドウ内を右クリックして[新規フォルダー]を選択することも可能です。
削除	選択したファイル/フォルダーを削除します。 ※直接ファイル/フォルダーを右クリックして[削除]を選択して実行することも可能です。
閉じる	ファイルマネージャーのウィンドウを閉じます。

ファイルマネージャー上部のアドレスバーでは、表示するディレクトリの変更やディレクトリ内の情報の更新などが可能です。

▼アドレスバー



①	戻る	直前に表示したディレクトリに戻り、表示します。
②	進む	[戻る]を選択前のディレクトリを表示します。
③	ホーム	デスクトップのディレクトリを表示します。
④	ディレクトリパス	表示されているディレクトリの絶対パスが表示されています。 移動したいディレクトリの絶対パスを直接入力して表示することも可能です。
⑤	更新	ファイルマネージャー外で行われたフォルダーやファイルの変更を、ファイルマネージャー内に反映させます。 ※直接ウィンドウ内を右クリックして[更新]を選択して実行することも可能です。

■ファイル転送イベントログ

ファイルマネージャー上での操作はすべてイベントログに記録され、セッション内でオペレーターとクライアントの双方からログの閲覧が可能です。ファイル転送イベントログは以下の手順で開きます。

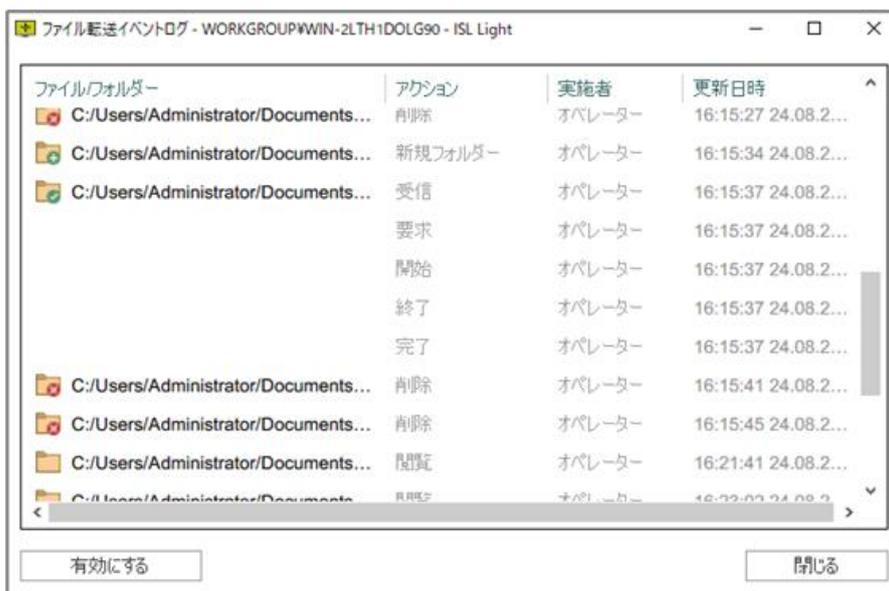
[オペレーター側の手順]

- 共有画面のツールバー内の[ファイル転送]を選択します。
- [ファイル転送イベントログ]を選択して、ログを表示します。

[クライアント側の手順]

1. チャットウィンドウのツールバー内の[ファイル転送]を選択します。
2. [イベントログ]を選択して、ログを表示します。

ファイル転送イベントログでファイルマネージャー上での操作を確認することができます。



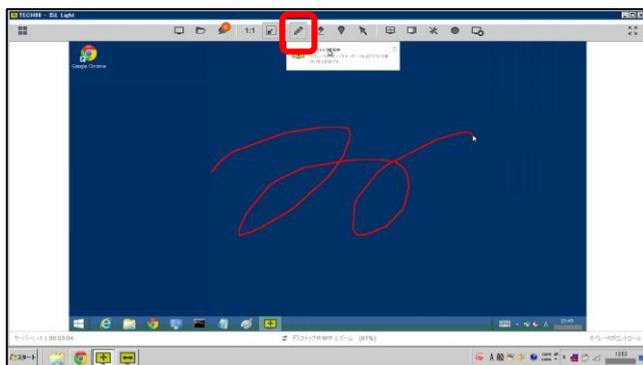
ファイル/フォルダー	操作が行われたファイル/フォルダー名が表示されます。
アクション	ファイルマネージャー上で行われた操作の内容が表示されます。
実施者	操作を行った実施者がオペレーターかクライアントかが表示されます。
更新日時	操作が行われた日時が表示されます。
有効にする/無効にする	[有効にする/無効にする]を選択すると、接続相手が自身の端末のディレクトリへアクセスすることを許可/禁止します。
閉じる	ファイル転送イベントログのウィンドウを閉じます。

6.3 ペンツールを使用する

デスクトップ共有を開始すると、共有画面上にペンで書き込みができます。書き込みは見る側、見せる側の双方からできます。

【見る側】

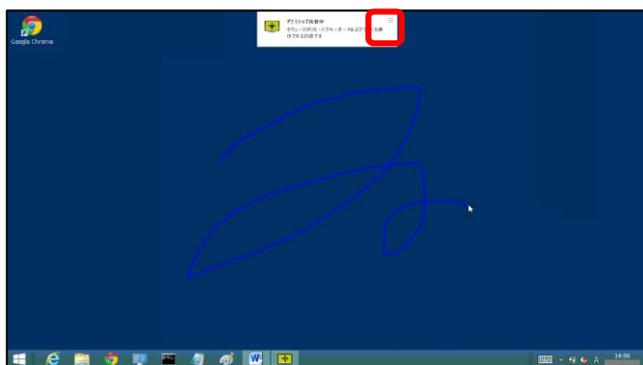
1. デスクトップ共有を行います。
2. ツールバー内の [ペン] を選択します。
3. マウスを操作して、ペン（赤）で自由に書き込みができるようになります。



- ➡ ・ ペンの書き込みを消去する場合は、[描画ツール] - [消去] を選択します
- ・ 書き込み（描画線）はデフォルトでは 10 秒後に自動的に消去されますが、[消去] を右クリックすると [5 秒] [10 秒] [手動] の中から消去のタイミングを選択できます。

【見せる側】

1. デスクトップ共有を行います。
2. [コントロールバー] の右上のボタンを選択して、[ホワイトボード] - [フリーハンド] を選択します。
3. マウスを操作して、ペン（青）で自由に書き込みができるようになります。



- ➡ ・ 書き込み（描画線）は、30 秒後に自動で消えます。手動で消す場合は [Esc] キーを押下してください。
- ・ オペレーター側からクライアントの書き込み（描画線）を消すことはできません。

6.4 ヘッドセット、カメラを使って会話を行う

ヘッドセットおよびカメラを使って会話を行います。ヘッドセットおよびカメラは、接続を開始する前にそれぞれの端末に接続しておく必要があります。

※ISL Light 4.4.2332.175以降からバーチャル背景機能がご利用いただけます。設定方法につきましては7.5音声およびビデオをご参照ください。

[手順]

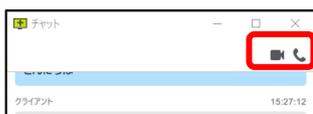
1. ヘッドセットおよびカメラを端末に接続しておきます。
(それぞれの端末で、事前に音声の出入力およびカメラが正常に動作することをご確認ください)

2. 通常の手順に従い、オペレーターとクライアントとの間で接続を行います。

3. ツールバーの[チャット]を選択して、チャットウィンドウを表示します。



4. チャットウィンドウ上部の、ビデオまたは受話器ボタンを選択します。

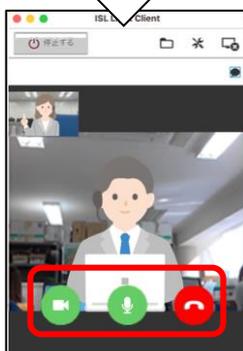


5. クライアント側に「オペレーターが呼んでいます」というメッセージが表示されます。

[応答]を選択すると、音声またはビデオを使用した会話を開始します。



拒否	音声およびビデオを使用した会話を拒否します。選択すると通常のチャットウィンドウに戻ります。
応答	音声およびビデオを使用して会話を開始します。会話中は、ツールバー上のチャットアイコンの表示が変わります。



	ビデオ： ビデオ映像の配信を「有効（緑）/無効（白）」にします。
	マイク： 音声の配信を「有効（緑）/無効（白）」にします。
	受話器： 音声通話/ビデオチャットを終了します。セッションは終了せず、通常のチャット画面に戻ります。

※会話終了後は、クライアント側からも会話を再開できます。

6.5 録画する

画面共有時の操作を録画（保存）します。

セッション（画面共有）開始時に自動で録画を開始することもできます。

作成された動画（.isr ファイル）は、ローカル端末内の任意の場所に保存できます。

■録画する（レコーディング）

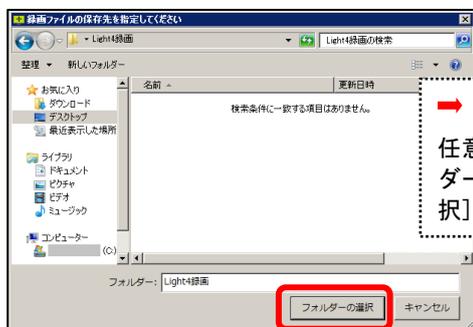
1. 画面共有を行います。

2. [ツールバー] - [レコーディング] を選択します。



3. [Windows の場合]

保存先を指定して [フォルダーの選択] を選択すると、録画を開始します。

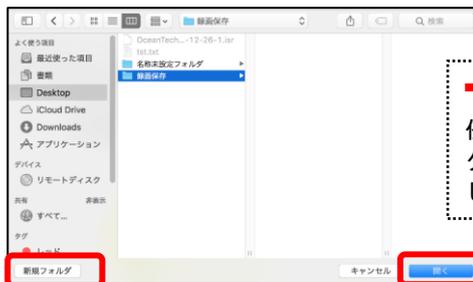


→ 注意

任意のフォルダーを保存先に指定する場合は、フォルダーの中身を完全に表示した状態で [フォルダーの選択] を選択してください

[macOS の場合]

保存先を指定して [開く] を選択すると、録画を開始します。



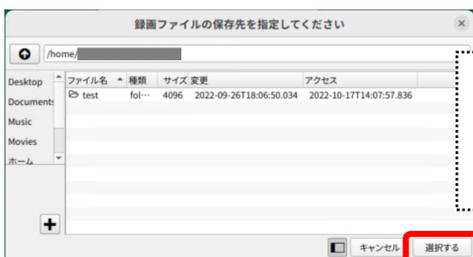
→ 注意

任意のフォルダーを保存先に指定する場合は、フォルダーの中身を完全に表示した状態で [開く] を選択してください

※ [新規フォルダー] を選択すると、保存先に新しいフォルダーを作成できます。

[Linux の場合]

保存先を指定して [選択する] を選択すると、録画を開始します。



→ 注意

任意のフォルダーを保存先に指定する場合は、フォルダーの中身を完全に表示した状態で [選択する] を選択してください



- 録画が開始されると、ツールバーのアイコンが赤くなります。
アイコンを再度選択すると、録画を停止します。
- 3で指定した場所に、動画（.isr ファイル）が保存されます。

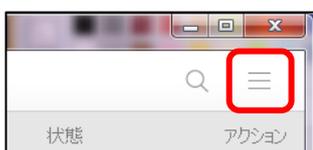
■自動レコーディング

画面共有開始時に自動で録画（レコーディング）を開始できます。デフォルトでは自動レコーディングはOFF（無効）になっています。

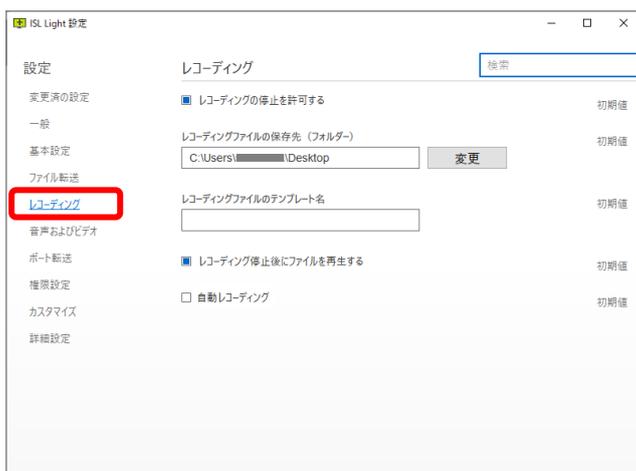
自動レコーディングを有効にするにはあらかじめ ISL Light で設定を行う必要があります。

[手順]

- ISL Light を起動します。
- 画面右上のメニューを選択して、[設定] を選択します。



- 設定画面が開きます。左メニューから [レコーディング] を選択します。



レコーディングの停止を許可する	チェックを外すと、録画開始後にツールバー上のレコーディング（停止ボタン）が押せなくなります。
レコーディングファイルの保存先（フォルダー）	録画した動画ファイルの保存先を指定します。 （保存先にデスクトップを指定できます）
レコーディングファイルのテンプレート名	録画する動画ファイルに名前（テンプレート名）をつけます。
セッション終了時にレコーディングを再生する	セッション終了直後、録画したファイルを開くかどうかたずねるメッセージの表示/非表示を設定します。
自動レコーディング	セッション開始時の自動レコーディングの有効/無効を設定します。

- 「自動レコーディング」にチェックを入れます。

5. セッション開始時に自動で録画（レコーディング）が実行されるようになります。

➡（補足）

クライアント側に動画を保存する場合は、クライアントの ISL Light で設定を行う必要があります。

■録画したファイルを再生する

録画したファイルは「. isr」拡張子のついたファイル名で保存されます。「. isr」ファイルは専用のプログラムである ISL Player で再生できます。

録画終了後すぐに再生する場合

1. 録画を開始した後、録画を終了すると
右のようなメッセージが表示されます。

[開く]を選択すると、サーバーに接続を開始します。



2. ISL Player が起動します。開始ボタンを選択すると、動画を再生します。
(ISL Player はインストールされません)

➡（補足）

[次回から表示しない]にチェックをすると、今後このダイアログは表示されなくなります。再度表示させたい場合は、[設定] - [レコーディング] - [レコーディング停止後にファイルを再生する]を有効にしてください。

手動で再生する場合

1. 以下の URL から ISL Player をダウンロードします。

▼パブリッククラウドライセンスの場合

<https://islv6.islonline.net/download/ISLPlayer>

▼オンプレミスライセンスの場合（ポートは必須ではありません）

<http://サーバーのIPアドレスまたはホスト名:ポート番号/download/ISLPlayer>

例：IP アドレス「192.168.0.1」、ポート「7615」の場合

<http://192.168.0.1:7615/download/ISLPlayer>

2. 起動 exe (macOS の場合は app) を実行して、ISL Player を起動します。

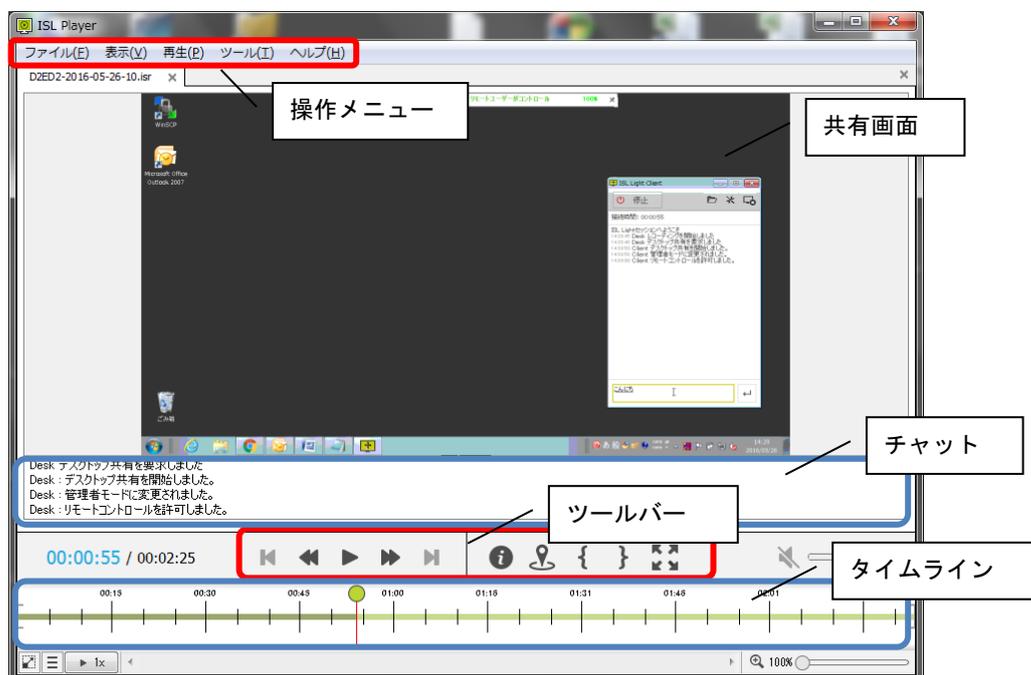
3. 再生するファイル (. isr) を[ファイル]-[開く]から指定するか、ISL Player 上にドラッグ&ドロップします。

4. ISL Player のツールバー上にある再生ボタンを選択して、動画を再生します。

➡（補足）

既に ISL Player をインストールしている場合は、動画ファイル (. isr) をダブルクリックするだけで ISL Player を起動できます。インストールを行う場合は、ISL Player の[ヘルプ]-[ISL Player をインストールする]を選択します。

■ ISL Player について



➡ macOS では、操作メニューはデスクトップのメニューバー上に表示されます。

▼ ツールバー



①⑤	前に戻る/次へ	直前（直後）のマーカ位置に移動します。
②④	再生スピードを下げる/上げる	動画の再生スピードを調整します。
③	再生する	動画を再生します。
⑥	プロパティ	<p>レコーディングの情報を表示します。</p> <p>➡ 「マーカ」タブについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マーカを挿入： 入力した位置にマーカ（位置情報）を挿入します。 マーカはキーボードの [Delete] キーを押して削除できます。 ・ 保存： マーカの位置情報ファイル（.meta）を指定したパスに保存します。 ・ 読み込む： 動画ファイルを開いた開始時のマーカ情報を読み込みます。 ・ リセット：ファイル（.meta）自体を削除します。
⑦	マーカを追加	現在のタイムライン位置にマーカを挿入します。 （「詳細」に入力したコメントは、⑥のマーカタブで参照できます）
⑧	開始点/終了点	動画をトリミングする際の、開始点/終了点を決定します。 （トリミングは動画をエクスポートする際にご利用いただけます）
⑨	フルスクリーン	フルスクリーンで表示します。

■操作メニュー

ISL Player 	<p>Services – Service Preferences : キーボードの設定を行います。</p> <p>Hide ISL Recording Player : ISL Player を隠します。</p> <p>Hide Others : ISL Player 以外のアプリケーションを隠します。</p> <p>Show All : 隠したアプリケーションをすべて表示します。</p> <p>Quit ISL Player : ISL Player を終了して閉じます。</p> <p>➡ ISL Player のメニューの一部が英語で表示されます。</p>
ファイル	<p>開く : 再生する動画を選択します。</p> <p>閉じる : 動画ファイルを閉じます (ISL Player は起動したままとなります)。</p> <p>エクスポート : 選択中の動画を、MPEG4 (V2) 形式でエクスポートします。</p> <p>プロパティ : レコーディング情報を確認することができます。</p> <p>➡ (補足) ISL Light で作成した動画ファイルと、Web 会議 (ISL Groop) で作成した動画ファイルとは、プロパティで確認できる内容が異なります。</p> <p>終了 : ISL Player を終了します。</p>
表示	<p>フルスクリーン (F11) : メニューバーありで表示します。</p> <p>フルスクリーン (Ctrl+F11) : メニューバーなしで表示します。</p> <p>ストリーム : チャット画面の表示/非表示を設定します。</p> <p>デスクトップ ズーム : 再生画面の表示サイズを設定します。</p> <p>➡ (補足)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フルスクリーンのショートカットは Windows のみご利用いただけます。 ・フルスクリーンは [Esc] キーを押して解除できます。
再生	<p>動画の「再生」「一時停止」「停止」のほか、動画の再生スピード (0.25 倍~4 倍) を変更します。</p>
ツール	<p>ISL Player の再生時に表示するエリア (画面共有画面、チャット画面、ビデオ画像、音声) を設定するほか、ログの参照や使用言語の変更を行います。</p>
ヘルプ	<p>ISL Player のアップデートの確認やインストール、バージョン情報の確認を行います。</p>

6.6 セッションを終了、一時停止する

■セッションの終了、一時停止/再開

ダッシュボードまたはオンラインページで実行中のセッション状況を確認できます。実行中のセッションは「終了（強制切断）」「一時停止/再開」が可能です。

- ➡ オンプレミスライセンスの場合、実行中のセッション状況は ISL Conference Proxy の管理画面からも確認できます。詳細は『ISL Conference Proxy 管理者ページ操作マニュアル』をご参照ください。

【方法1】ダッシュボードから操作する

1. ツールバーからダッシュボードを開きます。



2. [ワнтаイム]のタブを選択して、現在使用中のセッションの一覧を表示します。任意のセッションの右側にあるボタン（アクション）を選択します。



3. 任意のアクションを選択します。

アクション



- ・セッションを一時停止
- ・セッションを終了

4. ・ [セッションを終了] を選択すると、セッションの終了確認メッセージが表示されます。
[終了] を選択するとセッションを終了します。



- ・ [セッションを一時停止] を選択するとセッションを一時停止し、共有中の画面情報が更新されなくなります。

セッションを再開するには、ダッシュボードで「一時停止」の状態となっているセッションを選択します。「このセッションは一時停止中です。セッションを再開しますか？」のメッセージが表示されたら [はい] を選択します。



【方法2】オンラインページから操作する

1. オンラインページにログインします。

■パブリッククラウドライセンスの場合

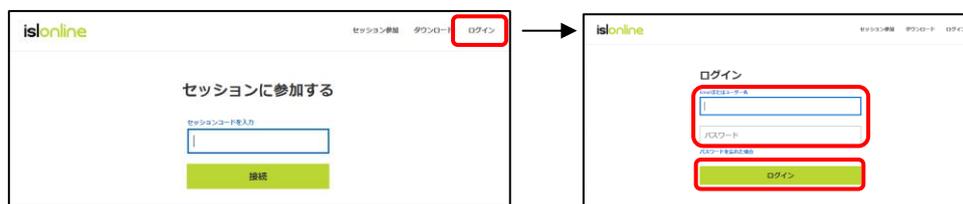
製品ページ(www.islonline.jp)にアクセスして、右上の[ログイン] を選択してユーザー名とパスワードを入力します。

ログイン

■オンプレミスライセンスの場合

<http://サーバーのIPアドレスまたはホスト名:ポート番号/>をブラウザで開き、画面右上の [ログイン] を選択します。

ユーザー名とパスワードを入力して[ログイン] を選択します。



2. [ワンタイム接続] を選択すると、実行中のセッションの一覧が表示されます。

[開く]横の ▼ から
[セッションを一時停止]を選択するとセッション一時停止します。
[セッションを終了]を選択するとセッションを終了(切断)します。

※画面はオンプレミスライセンスのもので

セッションを再開するには、停止状態となっているセッションの[編集]横の ▼ から[セッションを再開]を選択し、ダウンロードされるプログラムを起動後、再びログインしてセッションを再開します。



➡(補足) セッションの再開について **WIN** **Linux**

一時停止の状態となっているセッション欄を再び選択、あるいは[セッションを再開]を選択すると、プログラムがダウンロードされます。実行して再度（オペレーターのユーザーアカウントで）ログインすると、一時停止していたセッションを再開します。

➡(補足) セッションを終了（切断）について

「接続中のセッション」の画面からも実行中のセッションを終了することができます。終了したいセッションにチェックを入れて[選択したセッションを終了]を選択すると、セッションを強制的に終了（切断）します。



6.7 セッションを転送する

別のオペレーターに実行中のセッション（クライアントとの接続）を転送できます。

➡（補足）

- ・ オンプレミスライセンスの場合、別途メールサーバーが設定されている必要があります。詳細は『ISL Conference Proxy 管理者ページ操作マニュアル』をご参照ください。
- ・ セッション転送はオペレーターが別の端末に移動する場合など、転送先で転送元と同一のオペレーターを使用することも可能です。1 ライセンスでご利用中の場合は、転送前にセッションを一時停止する必要があります。

【方法1】ダッシュボードから操作する

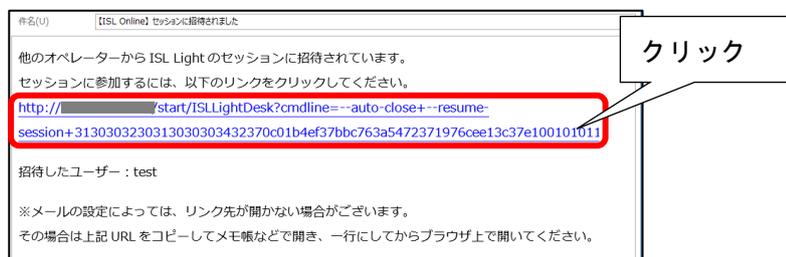
1. ツールバーからダッシュボードを開きます。



2. [ワнтаイム] のタブを選択して、現在実行中のセッションの一覧を表示します。
任意のセッションの右側にあるアクションボタンを選択します。
[セッション転送] - [Email を送信] を選択します。



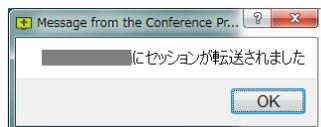
3. メール送信ダイアログが起動します。送信（転送）先のオペレーターのメールアドレスを入力し、メールを送信します。
4. 「【ISL Online】セッションに招待されました」という件名のメールが転送先のオペレーター宛に送信されます。転送先のオペレーターはメールを開き、中に記載されたリンクをクリックします。



- ➡ メールの設定によりリンク先が開かない場合がございます。その場合は上記 URL をコピーしてメモ帳などで開き、一行にしてからブラウザで開いてください。

5. ブラウザが起動し、プログラムがダウンロードされます。
6. ダウンロードしたプログラムを起動し、転送先のオペレーターのユーザー名とパス

ワードを入力後、[ログイン] を選択して接続を開始します。



(セッションが転送されると、転送元の PC 上にメッセージが表示されます)

【方法2】オンラインページで操作する

➡(補足)

- ・ オンプレミスライセンスでは、事前に ISL Conference Proxy の管理画面にログインして、以下の3つの設定をすべて [Yes (有効)] にする必要があります。

[Configuration] - [Security]:

<input type="checkbox"/>	User can view list of domains on server:	Yes
<input type="checkbox"/>	User can view list of users in own domain:	Yes
<input type="checkbox"/>	User can view list of users on server:	Yes

[手順]

1. オンラインページにログインします。

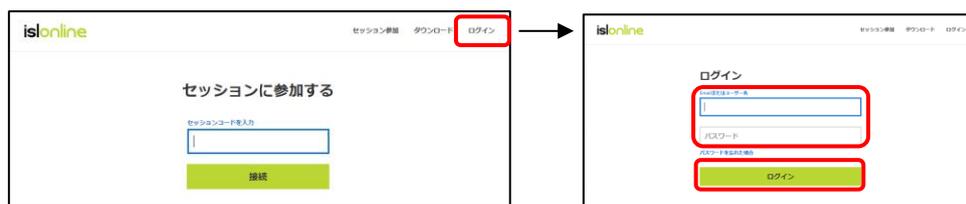
■パブリッククラウドライセンスの場合

ISL Online ホームページ(www.islonline.jp)にアクセスし、右上の[ログイン] を選択して、ユーザー名とパスワードを入力します。

■オンプレミスライセンスの場合

<http://サーバーのIPアドレスまたはホスト名:ポート番号/>をブラウザで開き、画面右上の [ログイン] を選択します。

ユーザー名とパスワードを入力して[ログイン] を選択します。



2. [ワンタイム接続] を選択すると、実行中のセッションの一覧が表示されます。
[編集]横の ▼ からリストを表示し、[セッション転送]-[Email を送信]を選択します。



※画面はオンプレミスライセンスのものです

3. セッション転送画面が表示されます。



以下のいずれかの方法で、宛先に送信先を入力します。

- (1) オペレーターのメールアドレスを直接入力する
- (2) 転送先のオペレーター名を入力する
- (3) [ユーザーの選択] を選択してリストを表示し、転送先のオペレーターを選択して [送信] を選択する

■オンプレミスライセンスの場合：別途メールサーバーの設定が必要です。詳しくは『ISL Conference Proxy 管理ページ操作マニュアル』をご参照ください。

4. [送信] を選択すると、Email が送信されます。

- 5. 「セッションに招待されました」という件名の Email が転送先のオペレーターに送信されます。転送先のオペレーターは Email を開き、中に記載されたリンク (Link) を選択します。



➡ メールの設定によりリンク先が開かない場合があります。その場合は上記 Link を右クリックしてリンク先をコピーし、メモ帳などで開いてからブラウザでリンク先ページを表示してください。

6. リンクを選択するとブラウザが起動し、プログラムのダウンロードが開始されます。
7. ダウンロードしたプログラムを起動し、転送先のオペレーターのユーザー名とパスワードを入力後、[ログイン] を選択して接続を開始します。



(セッションが転送されると、転送元の PC 上にメッセージが表示されます)

6.8 オペレーターを招待する

接続中のクライアントに対し、セッションを終了せずに別のオペレーターを招待できます。招待されたオペレーターは接続中のセッションとは別に、新規でセッションを開始します。（同時接続が2本以上可能なライセンスを保有している必要があります）

➡（補足）

- ・ オンプレミスライセンスの場合、別途メールサーバーが設定されている必要があります。詳細は『ISL Conference Proxy 管理者ページ操作マニュアル』をご参照ください。
- ・ 常駐接続のセッションにオペレーターを招待する場合は、P. 11 接続オプションの [Client を利用する] を有効にして接続してください。

【方法1】ダッシュボードから操作する

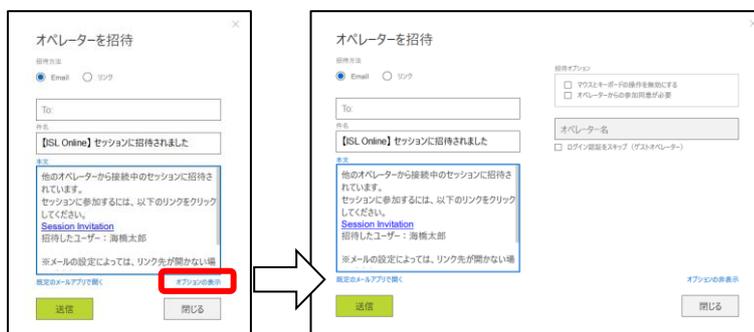
1. ツールバーからダッシュボードを開きます。



2. [ワнтаイム] のタブを選択して、現在実行中のセッションの一覧を表示します。任意のセッションの右側にあるアクションボタンを選択します。[オペレーターを招待] - [Email を送信] を選択します。

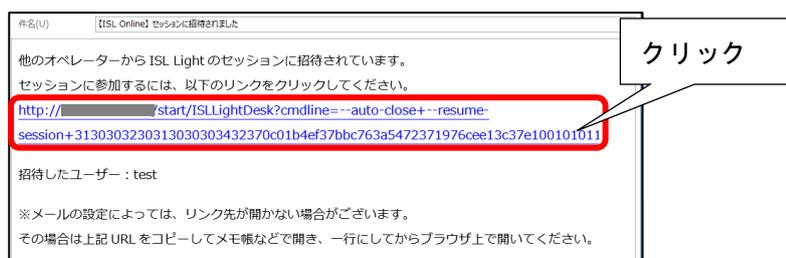


3. メール送信ダイアログが起動します。[オプションの表示]を選択すると、招待オプションを指定してオペレーターを招待することができます。



招待オプション	
マウスとキーボードの操作を無効にする	招待されたオペレーターのコントロール操作を禁止します
オペレーターからの参加同意が必要	招待したオペレーターが[許可]することでセッションに参加することができます 
オペレーター名	「ログイン認証をスキップ」にチェックすると入力できます。入力した情報はセッション一覧に表示されます。※未指定の場合は「ゲストオペレーター」と表示されます 
ログイン認証をスキップ（ゲストオペレーター）	招待されたセッションに参加する際に ISL Light へのログインをスキップし、セッションに参加します

- 送信先のオペレーターのメールアドレスを入力し、メールを送信します。
- 「【ISL Online】セッションに招待されました」という件名のメールが転送先のオペレーター宛に送信されます。転送先のオペレーターはメールを開き、中に記載されたリンクをクリックします。



➡ メールの設定によりリンク先が開かない場合がございます。その場合は上記 URL をコピーしてメモ帳などで開き、一行にしてからブラウザで開いてください。

- ブラウザが起動し、プログラムがダウンロードされます。
- ダウンロードしたプログラムを起動し、ログインを求められた場合はオペレーターのユーザー名とパスワードを入力後、[ログイン] を選択して接続を開始します。

【方法2】オンラインページで操作する

➡(補足)

- ・オンプレミスライセンスでは、事前に ISL Conference Proxy の管理画面にログインして、以下の3つの設定をすべて [Yes (有効)] にする必要があります。

[Configuration] - [Security]:

<input type="checkbox"/>	User can view list of domains on server:	Yes
<input type="checkbox"/>	User can view list of users in own domain:	Yes
<input type="checkbox"/>	User can view list of users on server:	Yes

[手順]

1. オンラインページにログインします。

■パブリッククラウドライセンスの場合

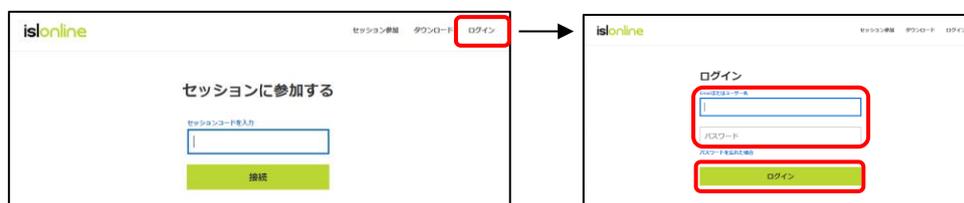
ISL Online ホームページ(www.islonline.jp)にアクセスし、右上の[ログイン]を選択して、ユーザー名とパスワードを入力します。



■オンプレミスライセンスの場合

<http://サーバーのIPアドレスまたはホスト名:ポート番号/>をブラウザで開き、画面右上の[ログイン]を選択します。

ユーザー名とパスワードを入力して[ログイン]を選択します。



2. [ワンタイム接続]を選択すると、実行中のセッションの一覧が表示されます。

[編集]横の ▼ からリストを表示し、[オペレーターを招待]を選択します。



※画面はオンプレミスライセンスのもので

3. セッション招待画面が表示されます。招待オプションを指定してオペレーターを招待することができます。招待オプションの詳細につきましては、【方法1】ダッシュ

キボードから操作する の 3. をご参照ください。

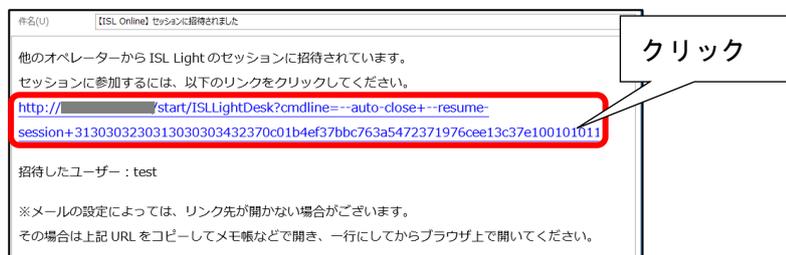
以下のいずれかの方法で、宛先に送信先を入力します。

- (1) オペレーターのメールアドレスを直接入力する
- (2) 転送先のオペレーター名を入力する
- (3) [ユーザーの選択] を選択してリストを表示し、転送先のオペレーターを選択して [終了] を選択する

送信先のオペレーターのメールアドレスを入力し、[送信] を押して招待メールを送信します。



4. 「【ISL Online】セッションに招待されました」という件名のメールが転送先のオペレーター宛に送信されます。転送先のオペレーターはメールを開き、中に記載されたリンクをクリックします。



➡ メールの設定によりリンク先が開かない場合がございます。その場合は上記 URL をコピーしてメモ帳などで開き、一行にしてからブラウザで開いてください。

5. ブラウザが起動し、プログラムがダウンロードされます。

6. ダウンロードしたプログラムを起動し、ログインを求められた場合はオペレーターのユーザー名とパスワードを入力後、[ログイン] を選択して接続を開始します。

6.9 履歴を見る、出力する

履歴ページで、セッションの履歴を参照、出力できます。

(ワンタイム接続、常駐接続ともに同じ履歴ページに表示されます。)

➡ (補足)

- ・ オンプレミスライセンスでは、セッション履歴は ISL Conference Proxy の管理画面からも確認できます。詳細は『ISL Conference Proxy 管理者ページ操作マニュアル』をご参照ください。
- ・ 履歴については、別紙『アカウントページマニュアル』でもご案内しております。

■セッション履歴を見る

1. オンラインページにログインします。

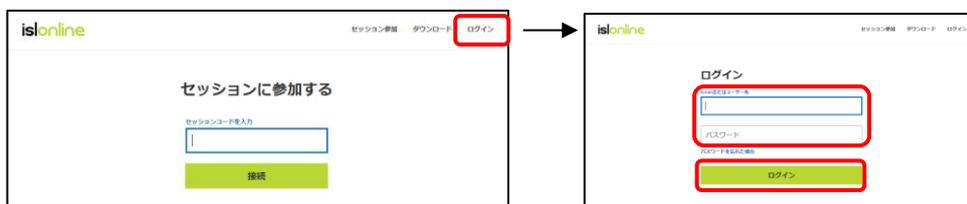
■パブリッククラウドライセンスの場合

ISL Online ホームページ(www.islonline.jp)にアクセスし、右上の [ログイン] を選択して 管理者 (ライセンスオーナー) のアカウント でログインします。



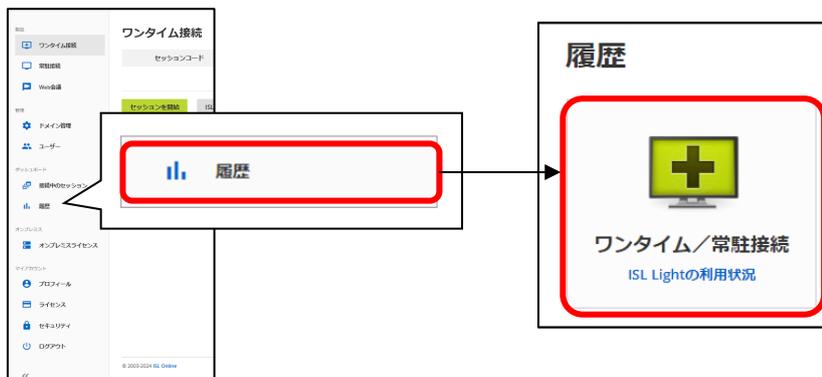
■オンプレミスライセンスの場合

「[http://サーバーの IP アドレスまたはホスト名:ポート番号/](http://サーバーのIPアドレスまたはホスト名:ポート番号/)」をブラウザで開き、画面右上の [ログイン] を選択します。ユーザー名とパスワードを入力して [ログイン] を選択します。



2. 履歴ページを開きます。

メニューから [履歴] を選択し、[ワンタイム/常駐接続 (ISL Light の利用状況)] を選択すると、セッション (ワンタイム接続・常駐接続) の履歴が表示されます。





※画面はオンプレミスライセンスのものです

➡ (補足) ツールボタンについて

ツールボタンを選択して、履歴に表示する項目を選択できます。

ご利用のライセンスの種類によりツールボタンに表示される内容が異なります。

■パブリッククラウドライセンス

■オンプレミスライセンス

メイン項目: カスタム項目:

- 日付
- セッションコード
- セッション名
- ユーザー名
- Email (クライアント)
- 接続時間
- ステータス
- 接続の種類
- 開始時間
- 転送データ (Bytes)
- サーバー
- OS (オペレーター)
- Ver (オペレーター)
- IPアドレス (オペレーター)
- OS (クライアント)
- Ver (クライアント)
- IPアドレス (クライアント)
- ホスト名 (クライアント)
- 詳細 (クライアント)
- ホスト名 (オペレーター)
- MACアドレス (クライアント)
- MACアドレス (オペレーター)
- プリベイド使用時間
- セッションタイアログ (オペレーター)
- セッションタイアログ (クライアント)
- チャット内容
- メモ
- 編集
- マルチセッションID

初期値

メイン項目: カスタム項目:

- ユーザー名
- 開始
- 停止
- 接続時間
- セッションタイプ
- セッション名
- 詳細 (クライアント)
- Email (クライアント)
- セッションコード
- 転送データ (Bytes)
- IPアドレス (クライアント)
- IPアドレス (オペレーター)
- OS (クライアント)
- OS (オペレーター)
- Ver (クライアント)
- Ver (オペレーター)
- ホスト名 (クライアント)
- ホスト名 (オペレーター)
- MACアドレス (クライアント)
- MACアドレス (オペレーター)
- 待機時間
- チャット
- メモ

※「カスタム項目」の機能はご利用いただけません。

- ・表示する項目にチェックを入れると、履歴画面に反映されます。パブリッククラウドライセンスは「変更」を選択して設定を保存する必要があります。
- ・「初期値」を選択すると、デフォルトの設定に戻ります。
- ・オンプレミスライセンスで ISL Conference Proxy 4.4.2335.124 をご利用の場合、「初期値」ボタンが表示されません。

■セッション履歴を出力する

任意の履歴を表示した後、結果を CSV 形式で出力できます。

※	ユーザー名	開始	停止	所要時間	セッションタイプ	セッション名	Email (クライアント)	セッションコード	チャット	メモ	アクション
1	user1	2023/8/7 17:10:25	2023/8/7 17:42:27	00:29:30	ワンタイム接続			17275948	開く		編集
2	user1	2023/8/7 16:17:37	2023/8/7 16:17:49	00:00:10	常駐接続			30794560	開く		編集
3	user2	2023/8/7 15:28:18	2023/8/7 15:28:58	00:00:39	常駐接続			85436443	開く		編集
4	user1	2023/8/7 15:27:40	2023/8/7 15:27:58	00:00:16	常駐接続			48443856	開く		編集
5	user1	2023/8/7 14:37:38	2023/8/7 14:37:56	00:00:11	常駐接続			80107853	開く		編集
6	user1	2023/8/7 14:35:14	2023/8/7 14:36:33	00:01:06	常駐接続						
7	user1	2023/8/7 13:38:15	/	/	ワンタイム接続						
8	user1	2023/8/7 11:58:45	2023/8/7 12:09:36	00:10:39	常駐接続			67168033	開く		
9	user1	2023/8/4 18:36:56	2023/8/4 18:37:45	00:00:45	常駐接続			46465924	開く		
10	user1	2023/8/4 18:35:51	2023/8/4 18:36:35	00:00:40	常駐接続			44921936	開く		

[エクスポート]を選択して、履歴を CSV ファイル形式で出力できます。

CSV (セミコロン区切り) エクスポート

※画面はオンプレミスライセンスのもので

➡ (補足)

- ・オンプレミスライセンスの履歴 (チャットなど) 内に日本語情報が含まれている場合は、[エクスポート] で出力した CSV ファイル内の日本語が文字化けします。
- ・出力した使用履歴の CSV ファイルを Excel で開く方法は、以下をご参照ください。

▼セッション履歴の CSV ファイルを、Excel で開く方法を教えてください。

https://www.islonline.jp/help/faq_isllight.html#lit13

■会話（チャットウィンドウのメッセージ）の内容を見る

- ・ ツールボタンの[チャット内容]を表示することで、オペレーターとクライアントの会話（チャットウィンドウ上で表示された内容）が参照できます。
- ・ パブリッククラウドライセンスの場合はオンラインページのユーザー画面で、オンプレミスライセンスの場合は ISL Conference Proxy の [User management] 画面であらかじめ設定を有効にしておく必要があります。

[手順]

■パブリッククラウドライセンスの場合

1. ISL Online ホームページ(www.islonline.jp)にアクセスし、 右上の [ログイン] を選択して 管理者（ライセンスオーナー）のアカウント でログインします。
2. メニューから [ユーザー] を選択し、会話を保存したいオペレーターの [ダイアログ設定] を選択します。
➡ ドメインに所属する全ユーザーを指定する場合は、[ドメインの設定] - [ダイアログ設定] を選択します。



スクリーンショットは ISL Online の管理画面を示しています。左側のナビゲーションメニューには「製品」セクションに「ワンタイム接続」、「常駐接続」、「Web会議」があり、「管理」セクションに「ドメイン管理」、「ユーザー」があります。「ユーザー」メニュー項目は赤い枠で囲まれています。右側の「ワンタイム接続」パネルには「セッションコード」の入力欄があります。下部の「ユーザー」管理画面には、検索欄、ドメイン選択メニュー、およびユーザーリストがあります。ユーザーリストの「アクション」列には「詳細設定」、「ダイアログ設定」、「その他」のボタンがあり、「ダイアログ設定」ボタンは赤い枠で囲まれています。また、「フィルタリング」メニューは開かれ、「ダイアログ設定」が選択されています。

- セッションダイアログの設定画面が開きます。「オペレーター側」および「クライアント側」の設定を「有効」にして「保存」を選択します。

- 以降、3 の設定を行ったユーザーのアカウントで接続を行うと、会話内容（チャットウィンドウ上で表示された内容）が履歴に保存されます。
- ツールボタンで「チャット内容」を有効にすると、「チャット内容」欄に黄緑色の吹き出しマークが表示されます。吹き出しマークにマウスのポインターを合わせると、会話内容（チャットウィンドウ上で表示された内容）が表示されます。

日付	セッション名	ユーザー名	接続時間
1. 27.0			00:14:39
2. 20.0			00:01:12
3. 11.07.2023 17:12			00:07:39
4. 11.07.2023 14:48			00:13:40 FINISHED ワンタイム接続

■オンプレミスライセンスの場合

1. ISL Conference Proxy の管理画面にログインして、以下の設定を [Yes] にして設定を保存します。

■ ISL Light を使用する全オペレーターに対して設定を有効にする場合

[Configuration] - [ISL Light] - [Send chat transcripts after the session:]

■ 特定のオペレーターの設定を有効にする場合

[User management] - (ユーザー選択) - [ISL Light] - [Send chat transcripts after the session:]

■ 特定のドメインに所属する、全オペレーターの設定を有効にする場合

[User management] - (ドメイン選択) - [ISL Light] - [Send chat transcripts after the session:]

➡(補足)

ISL Conference Proxy 管理画面の詳細は『ISL Conference Proxy 管理者ページ操作マニュアル』をご参照ください。

- 以降、1 の設定を行ったユーザー（ドメイン）のアカウントで接続を行うと、会話内容（チャットウィンドウ上で表示された内容）が保存されます。
- オンラインページのツールボタンの[チャット内容]が有効の場合、「チャット内容」欄にリンクが表示されます。リンクを選択すると、会話の内容（チャットウィンドウ上で表示された内容）が表示されます。

The screenshot displays the ISL Conference Proxy management interface. On the left, there is a 'ツールボタン' (Tool Button) menu with 'チャット内容' (Chat Content) selected. The main area shows a session log table with columns for '所要時間', 'セッションタイプ', 'セッション名', 'Email (クライアント)', 'セッションコード', and 'チャット内容'. A red box highlights the 'チャット内容' column, and a red box highlights the '開く' (Open) link in the first row. Below the table, a 'チャット' (Chat) window is open, displaying a log of messages between a Desk and a Client.

所要時間	セッションタイプ	セッション名	Email (クライアント)	セッションコード	チャット内容
00:01:51	ワンタイム接続			32656430	開く
/	ワンタイム接続			79388207	開く
2023/7/31 12:09:07 / /	ワンタイム接続			83267838	開く
2023/7/28 17:31:04 2023/7/28 18:23:11	00:51:43	ワンタイム接続		30573925	開く

接続時間 (合計)
10:20:35
平均時間: 00:03:39

チャット

2017-02-14 07:22:40 +00:00 Desk : デスクトップ共有を要求しました
2017-02-14 07:22:42 +00:00 Client : デスクトップ共有 (見せる)を開始しました
2017-02-14 07:23:04 +00:00 Desk : はじめまして、オペレーターは山田です。
2017-02-14 07:23:32 +00:00 Client : 初めまして、鈴木です。
2017-02-14 07:23:53 +00:00 Desk : デスクトップ画面を操作してもよろしいでしょうか。
2017-02-14 07:24:01 +00:00 Client : はい宜しくお願いします。

6.10 常駐接続をセットアップする

【方法1】ダッシュボードからセットアップ

ISL Light 4.4.2031.107 以降のバージョンでは、ダッシュボードから常駐接続のクライアントを登録できます。

ISL Light を起動し、ダッシュボードのスタート[+]から[常駐接続をセットアップ]を選択します。



「Email」「リンク」「インビテーションコード」の中から追加方法を選択し、それぞれ以下の方法で ISL AlwaysOn のインストーラーをダウンロードできます。

■ Email で招待する場合

1. 接続先のメールアドレスを入力し、[送信]を選択します。



※[既定のメールアプリで開く]を選択すると、アクセス許可のリンク情報を含んだ状態で規定のメールソフトが起動します。

2. クライアント側で受信したメール内の URL (インビテーションリンク) を選択すると、ブラウザが起動し、ISL AlwaysOn のインストーラーのダウンロードが開始されます。



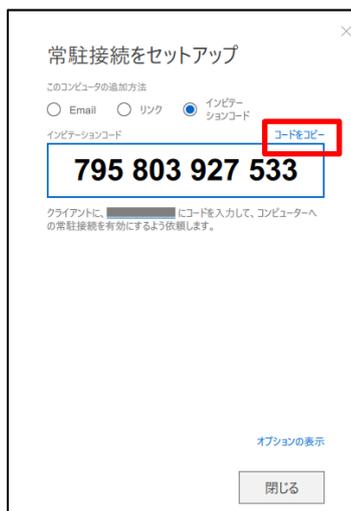
■ リンクで招待する場合

1. 招待リンクが表示されているので、右上の「URL をコピー」を選択し、任意の方法でクライアントに送信します。
2. クライアント側で招待リンクにアクセスするとブラウザが起動し、ISL AlwaysOn のインストーラーのダウンロードが開始されます。



■ インビテーションコードで招待する場合

1. 表示されているコードを、任意の方法でクライアントに連絡します。右上の「コードをコピー」を選択してクリップボードにコピーすることも可能です。
2. クライアント側で、以下の URL からセッション参加ページにアクセスし、コードを入力すると、ISL AlwaysOn のダウンロードページに移動します。



▼パブリッククラウドライセンスの場合

<https://islonline.net/users/main/join.html>

▼オンプレミスライセンスの場合

<http://サーバーの IP アドレスまたはホスト名:ポート番号/users/main/join.html>



3. ISL AlwaysOn のインストーラーのダウンロードが開始されます。

➡ (補足)

「オプションの表示」を選択すると、あらかじめ以下のオプションを設定の上、常駐接続のクライアントを登録できます。(インビテーションコードで招待する場合には、「グループへ追加」のみ設定が可能です)

グループへ追加	追加する端末を指定したグループに振り分けます。
通称	常駐接続の端末一覧に表示される名前です。 未入力の場合は、端末のコンピューター名で追加されます。
タグ	タグ(端末検索の際に使用)を設定します。



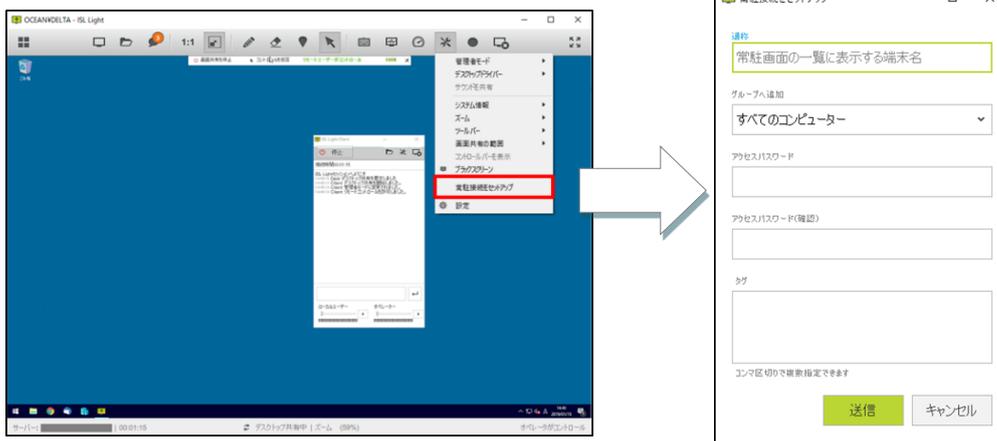
➡ (補足)

ISL AlwaysOn のインストールに関する詳細な手順は、『常駐接続 (ISL AlwaysOn) マニュアル』をご参照ください。

【方法 2】 ワンタイム接続中のクライアント端末にセットアップ

ワンタイム接続中のクライアント端末に ISL Always0n がインストールできます。

1. クライアントとワンタイム接続を開始します（画面共有を行う必要はありません）。
2. [ツールバー]-[常駐接続をセットアップ]を選択します。



3. セットアップウィンドウに必要な情報を入力し、[送信]を選択します。

通称	常駐接続の端末一覧に表示される名前です。 未入力の場合は、端末のコンピューター名で追加されます。
グループへ追加	追加する端末を指定したグループに振り分けます。
アクセスパスワード	常駐接続を開始する際に必要なアクセスパスワードです。 <ul style="list-style-type: none"> ●クライアントに ISL Always0n がインストールされていない場合 <ul style="list-style-type: none"> ・ここで入力したパスワードは、メインパスワードおよび個別パスワードとして登録します。 ・未入力の場合は、ISL Always0n のインストール時にクライアント側でメインパスワードを設定します。 ●クライアントに ISL Always0n がインストールされている場合 <ul style="list-style-type: none"> ・ここで入力したパスワードは、個別パスワードとして登録します。 ・未入力の場合は、既に設定されているメインパスワードで接続を開始できます。 <p>➡（参考）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パスワードは大文字・小文字を含む英数字 8 文字以上で、以下の記号を含む必要があります。 ! _ - () , . : ; ' " \$ < > + % & # = * { } [] ・パスワードの種類については、『常駐接続 (ISL Always0n) マニュアル』をご参照ください。
タグ	タグ（端末検索の際に使用）を設定します。

4. クライアントに UAC 画面が表示されます。

※クライアントが ISL Light Client (Windows 版) でセッションに参加している場合は、ISL Always0n のダウンロード URL が発行されます。ダウンロード後、プログラムを起動すると UAC 画面が表示されます。

5. クライアントが UAC 画面を許可すると、ISL Always0n のインストールウィザードが立ち

上がります。[次へ]を選択します。

6. インストール完了後に表示される[完了]を選択すると、ISL AlwaysOn のオペレーター追加画面が表示されます。メインパスワード設定後、[アクセス許可]を選択します。
7. [保存]を選択し、ISL AlwaysOn の設定を閉じます。

➡(補足)

ISL AlwaysOn のインストールに関する詳細な手順は、『常駐接続 (ISL AlwaysOn) マニュアル』をご参照ください。

6.11 端末をグループで管理する

グループを作成して、接続先の端末を分類することができます。

グループ（に分類した接続先端末）は、他のオペレーターと共有できます。

➡（補足）

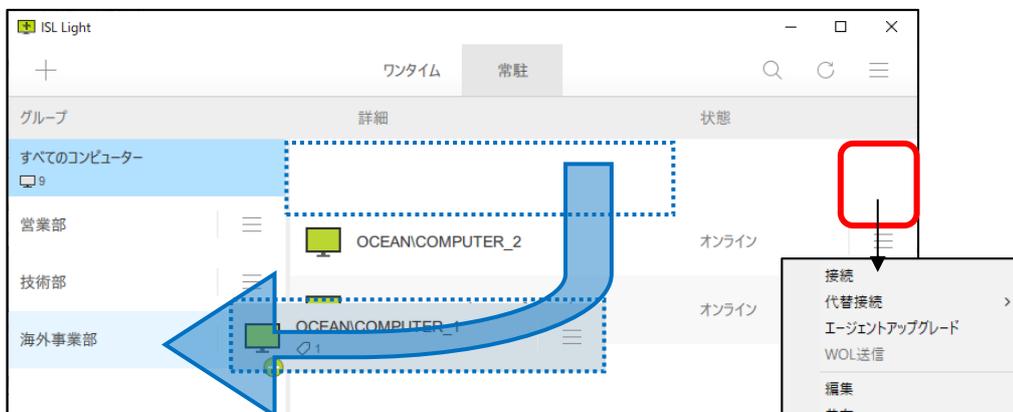
- ・ 端末は、それぞれ特定の1グループにのみ所属させることができます。
- ・ 端末検索に複数の要件が必要な場合は、タグ機能も合わせてご利用ください。（タグの詳細は『常駐接続（ISL AlwaysOn）マニュアル』をご参照ください）

■新規グループを作成する

1. ISL Light を起動し、[常駐] を選択します。
2. 画面左上の [+] を選択して、[グループを作成] を選択します。
3. グループ名を入力し、[作成] を選択します。
4. グループが作成されます。

■グループへ追加する

1. ISL Light を起動し、[常駐] を選択します。
2. 端末をドラッグ&ドロップして、所属先のグループに移動します。
（[アクション] - [グループへ移動] から設定できます）



3. グループ名を選択すると、所属する端末が表示されます。



■グループの編集・削除

1. [常駐]タブを選択します。
2. 対象グループのアクションを選択します。



編集	グループ名を変更します。
共有	グループ内に所属しているすべての端末を他のユーザー/ユーザーグループと共有します。(ユーザーグループへの共有はオンプレミスライセンスのみ)
削除	グループを削除します。 ※グループ内に端末が1台でも存在していると、グループを削除できません。グループ内に所属している端末を別グループへ移動、あるいは削除する必要があります。

■グループの共有

共有機能を使用すると、あるオペレーターが接続できるよう登録した端末を別のユーザーからも接続できるよう紐づけができ、オペレーターごとの常駐接続のインストールが不要になります。

・パブリッククラウドライセンスでユーザーを追加する手順につきましては、以下FAQまたは『アカウントページマニュアル』をご参照ください。

Q: パブリッククラウドライセンスで、複数のオペレーターで別々のユーザー名とパスワードを使用できますか？

<https://islsupport.oceanbridge.jp/portal/ja/kb/articles/create-multi-user>

・オンプレミスライセンスでは、ISL Conference Proxy 4.3.9 (ISL AlwaysOn 2.2.9) 以上が必要です。また、事前に ISL Conference Proxy の管理画面にログインして以下の3つの設定をすべて [Yes (有効)] にする必要があります。

[Configuration] - [ISL AlwaysOn]:

- User can share connection: Yes
- User (as guest) can share connection with owner in same domain: Yes
- User (as guest) can share connection with owner on same server: Yes

※複数のドメインを設定している場合は、以下の設定も必要です

[Configuration] - [Security]:

- ・ User can view list of domains on server
- ・ User can view list of users on server

グループの共有手順

1. [常駐] タブを選択します。
2. 対象グループのアクションから[共有]を選択します。



3. 共有可能なユーザー/ユーザーグループの一覧が表示されます。
グループを共有するユーザー/ユーザーグループにチェックを入れ、権限を設定します。※ISL Light 4.4.2332.175以降からは端末・グループ所有者は非活性で表示されるようになりました。



グループ管理者	共有端末への接続、端末の編集・移動、共有ユーザーの権限管理およびアクションの実行ができます。
コンピューター管理者	共有端末への接続、端末の編集・移動およびアクションの実行ができます。
接続のみ	共有端末への接続およびアクションの実行ができます。

4. [保存]を選択します。

5. 共有が完了すると、グループ名の下に人型のアイコン（数字：共有しているオペレーターの人数）が表示されます。

アイコンを選択すると、共有しているユーザー/ユーザーグループを確認できます。



6.12 代替接続を利用する

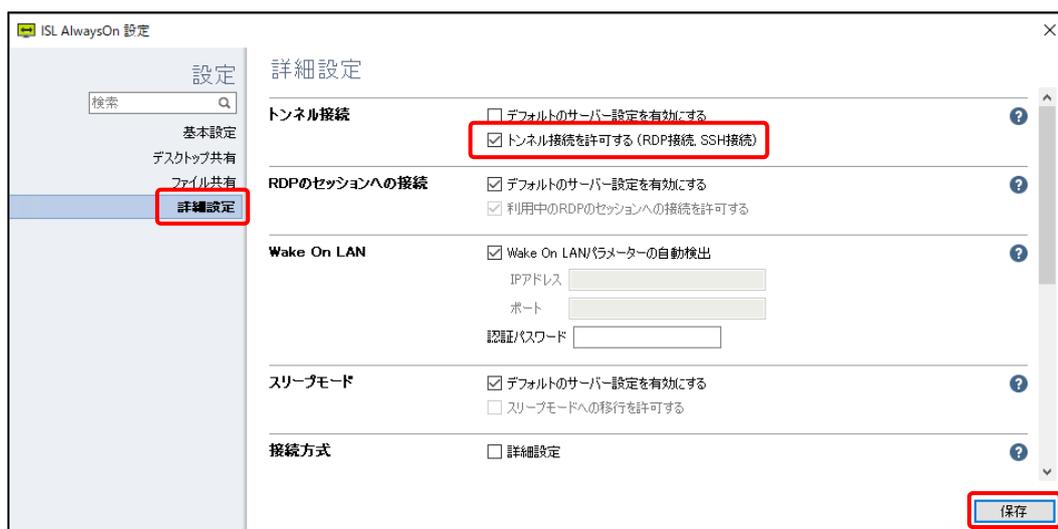
通常の常駐接続に加えて代替接続が選択できます。代替接続では、ISL AlwaysOn をインストールしている端末、またはその端末からアクセス可能な端末に対して ISL Light 上から RDP 接続、SSH 接続によるセッションを実行できます。また、ISL AlwaysOn をインストールしていない端末やネットワークプリンターへの接続も可能です。

本機能を利用するためには、以下の条件を満たしている必要があります。

1. 接続される端末の OS 設定で RDP 接続（SSH 接続）の受信が許可されていること
2. ISL AlwaysOn の設定でトンネル接続の利用が許可されていること（初期値：無効）

[手順]

- 1) 接続先の ISL AlwaysOn の設定画面を開きます。
- 2) [詳細設定] - [トンネル接続を許可する]を☑（有効）にします。
- 3) [保存]を選択します。



※設定に関する詳細は『常駐接続（ISL AlwaysOn）マニュアル』をご参照ください。
※端末へ RDP 接続する手順は **常駐端末へ RDP 接続のセッションを実行する** をご参照ください。

以下の場合、事前に専用プログラムをインストールする必要があります。

プログラム名	詳細
PuTTY WIN	Windows で SSH 接続を行う場合に使用します。 設定変更を行うことで、既にインストール済みの SSH 接続用クライアントを使用することもできます（7.6 参照）。

Microsoft Remote Desktop Mac	macOS で RDP 接続を行う場合に使用します。(Caralina 以前) App Store から OS に適したバージョンをインストール後、ISL Light の設定を変更します (7.6 参照)。
Parallels Client Mac	macOS で RDP 接続を行う場合に使用します。(Big Sur 以降) App Store から OS に適したバージョンをインストール後、ISL Light の設定を変更します (7.6 参照)。
Remote Desktop Viewer Linux	Linux で RDP 接続を行う場合に使用します。 ISL Light の設定を変更します (7.6 参照)。

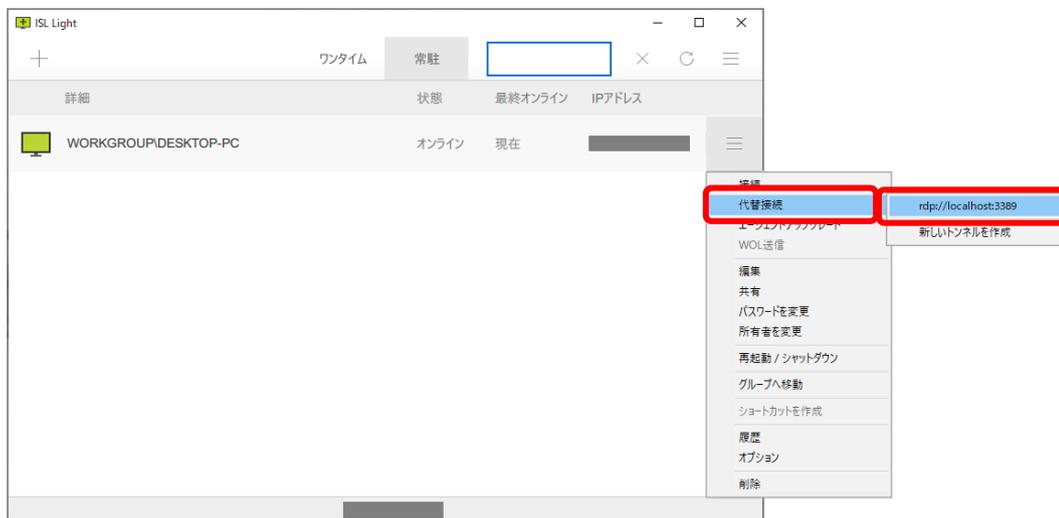
➡ (補足)

以下の条件では、セッション中に代替接続はご利用になれません。

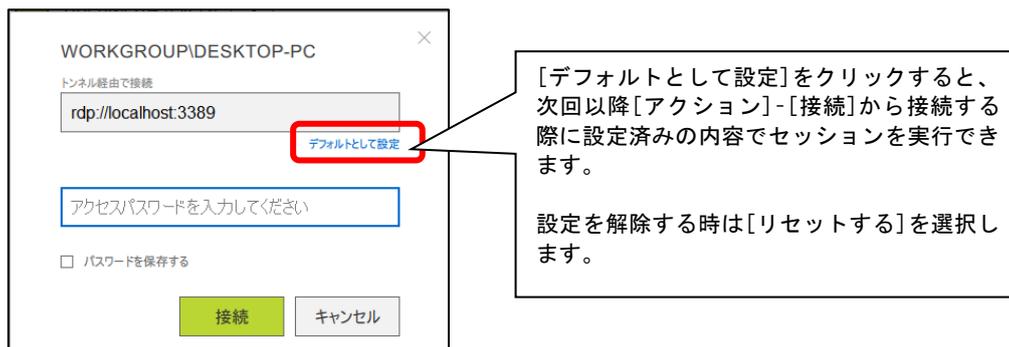
- ・ 接続オプション[Client を利用する][メインウィンドウを非表示にする]を有効にして Windows に常駐接続を行った場合
- ・ クライアントが ISL Light Client (Windows 版) でセッションに参加した場合
- ・ 代替接続開始後にセッション再接続が必要な動作 (再起動やログオフ) が発生する場合
(例) ログオン状態の端末に対して RDP 接続 ([rdp://localhost:3389]) を実行した場合

常駐端末へ RDP 接続のセッションを実行する

1. 接続を行う端末の[アクション]を選択します。
2. [代替接続]-[rdp://localhost:3389]を選択します。



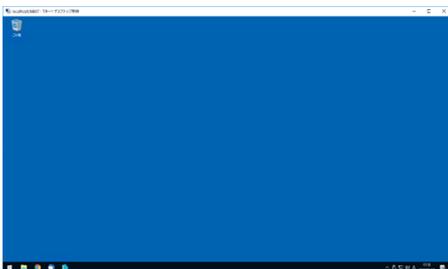
3. 常駐端末のアクセスパスワードを入力して[接続]を選択します。



4. リモートデスクトップ接続の資格情報入力画面が表示されます。
Windows のユーザー名およびパスワードを入力して [OK] を選択します。
(証明書エラーが表示された場合は、[はい]を選択します)

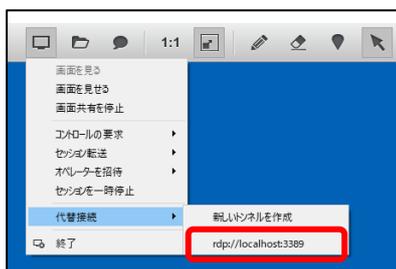


5. 接続先へ RDP 接続のセッションが実行されます。



➡ (補足)

常駐接続の開始後も、代替接続によるセッションを実行できます。



常駐端末を経由して別の端末へ接続する

1. 接続を行う端末の[アクション]を選択します。
2. [代替接続]-[新しいトンネルを作成]を選択します。
3. ウィンドウに必要な情報を入力し、[作成]を選択します。



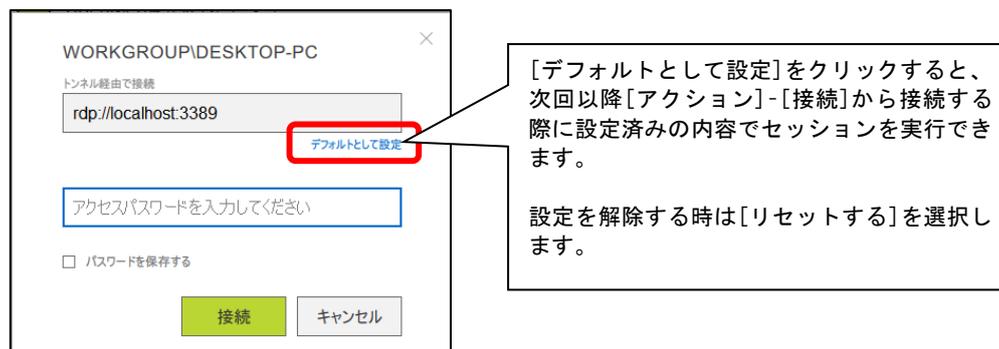
```
データ
{
  "local": {
    "execute": [
      "C:\\WINDOWS\\system32\\cmd.exe",
      "/public",
      "/v/localhost:{PORT}"
    ]
  }
}
```



```
データ
{
  "local": {
    "execute": [
      "ssh://localhost:22"
    ]
  }
}
```

- ・ IP アドレス欄には IP アドレスおよび DNS 名が指定可能です。
- ・ IP アドレスを指定しない場合、localhost が使用されて常駐端末に接続が行われます。
- ・ ポートを指定しない場合、初期値を使用します。

4. 常駐端末のアクセスパスワードを入力して[接続]を選択します。



5. リモートデスクトップ接続の資格情報入力画面（SSH 接続の場合は接続クライアント）が表示されます。ユーザー名およびパスワードを入力して[OK]を選択します。
6. 接続先へ RDP 接続のセッションが実行されます。

次回以降、[アクション]-[代替接続]から作成済みの設定内容を選択してセッションを実行できます。

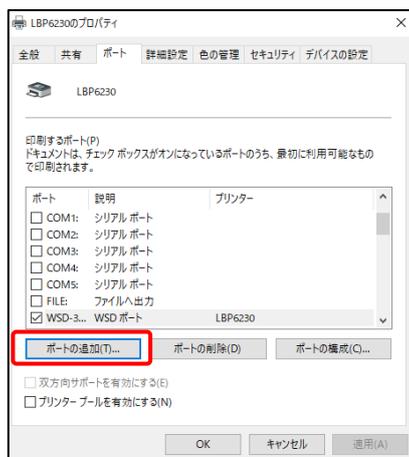
ネットワークプリンターを利用する

代替接続を活用すると、オペレーターが操作する端末 A とは異なるネットワーク上の端末 B を経由して、端末 B と同じネットワーク上にあるプリンター P を利用できます。

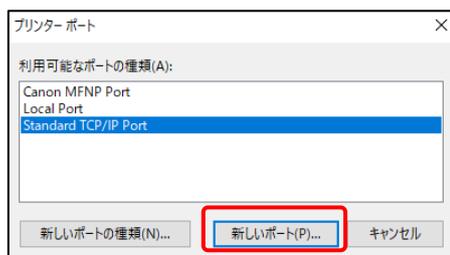
1. 初めに端末 A がプリンター P に接続できる状態で、プリンターの設定を行います。
(Windows 10 の場合) [設定]-[デバイス]-[プリンターとスキャナー]を選択します。
2. 利用するネットワークプリンターのデバイスを追加します。
※以前プリンターを使用したことがある場合は、該当のプリンター設定を変更することも可能です。



3. [管理]-[プリンターのプロパティ]から、追加したプリンターのプロパティを開きます。
4. [ポート]タブから[ポートの追加]を選択します。



5. [Standard TCP/IP Port]が選択されていることを確認し、[新しいポート]を選択します。



6. ポートの追加ウィザードが表示されたら[次へ]を選択します。

7. プリンターの IP アドレスにループバックアドレス (127.0.0.1) を指定し、[次へ] を選択します。

標準 TCP/IP プリンター ポートの追加ウィザード

ポートの追加
どのデバイスに対するポートを追加しますか?

希望のデバイスのプリンター名または IP アドレス、およびポート名を入力してください。

プリンター名または IP アドレス(A): 127.0.0.1

ポート名(P): 127.0.0.1

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

8. ポートの検出が完了するのを待ちます。
9. 「デバイスを認識できません。」と表示されますが、無視して [次へ] を選択します。

標準 TCP/IP プリンター ポートの追加ウィザード

追加のポート情報が必要です
デバイスを識別できませんでした。

デバイスがネットワーク上に見つかりません。以下の点を確認してください:

1. デバイスがオンになっている。
2. ネットワークが接続されている。
3. デバイスが正しく構成されている。
4. 前のページのアドレスが正確である。

アドレスが間違っていると考えられる場合は、[戻る] をクリックして、前のページに戻り、アドレスを修正し、ネットワークで別の検索を実行してください。アドレスが確実に正確である場合は、次のデバイスの種類を選択してください。

デバイスの種類

標準(S) Generic Network Card

カスタム(C) 設定(E)...

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

10. [完了] を選択してウィザードを終了します。
11. 追加されたポートにチェックを入れ、[ポートの構成] を選択します。

LBP6230のプロパティ

全般 共有 **ポート** 詳細設定 色の管理 セキュリティ デバイスの設定

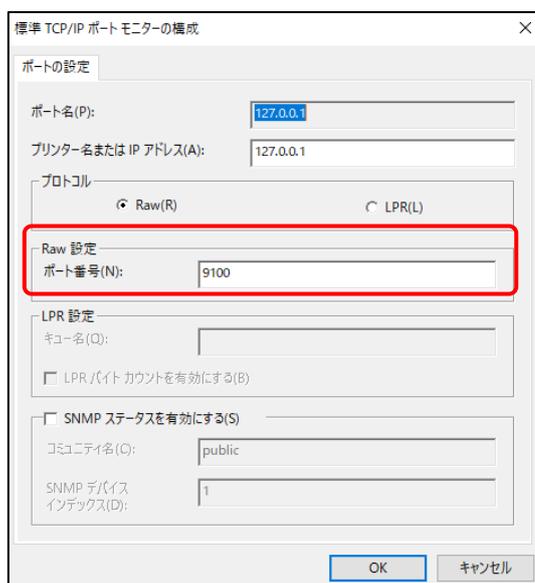
LBP6230

印刷するポート(P)
ドキュメントは、チェックボックスがオンになっているポートのうち、最初に利用可能なもので印刷されます。

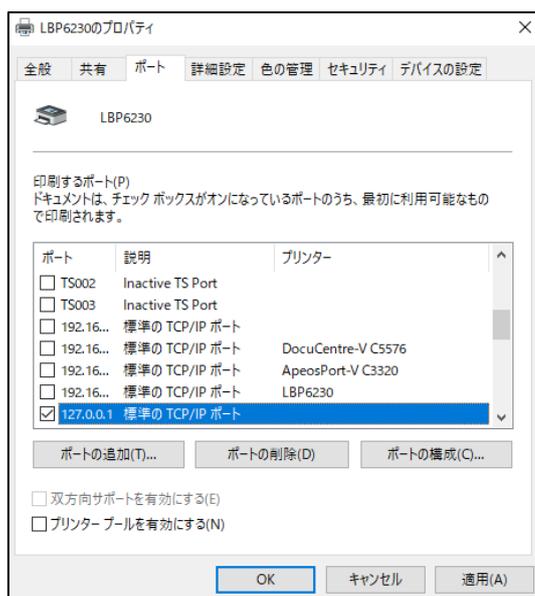
ポート	説明	プリンター
<input type="checkbox"/> TS003	Inactive TS Port	
<input type="checkbox"/> 192.16...	標準の TCP/IP ポート	
<input type="checkbox"/> 192.16...	標準の TCP/IP ポート	DocuCentre-V C5576
<input type="checkbox"/> 192.16...	標準の TCP/IP ポート	ApeosPort-V C3320
<input checked="" type="checkbox"/> 127.0.0.1	標準の TCP/IP ポート	
<input type="checkbox"/> PORTR..	ローカル ポート	Microsoft XPS Document Write...

ポートの追加(T)... ポートの削除(D) **ポートの構成(C)...**

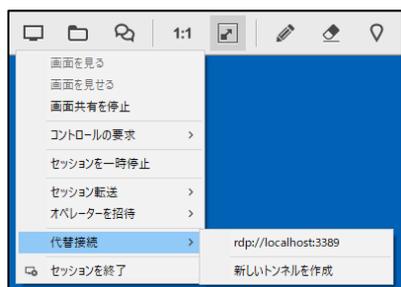
12. トンネルに使用する転送ポートを指定します（初期値：9100）。



13. 設定したポートをプリンターに適用し、プロパティを閉じます。



14. ネットワークプリンターにアクセス可能な端末 B へ常駐接続を行います。
 15. ツールバーから [画面共有]-[代替接続]-[新しいトンネルを作成] を選択します。



16. [Custom]を選択し、ローカルの転送ポート、ネットワークプリンターの IP アドレスおよびポートを指定します。

local	
addr	localhost
port	転送ポートに指定したポートを指定します。
remote	
addr	ネットワークプリンターのアドレスを指定します。
port	ネットワークプリンターのポートを指定します。
times	
ポート転送の回数を指定します（初期値：1）。 初期値でトンネルを作成した場合、1 ドキュメントの印刷後にトンネルが無効になります。 上の画像例では設定を削除しているため、印刷可能なドキュメント数に制限はありません。	

17. [作成]を選択します。
18. 以降、ISL Light によるセッションが継続されポート転送を行っている間ネットワークプリンターが利用できます。ポート転送中は、[代替接続]メニュー内にチェックが表示されます。



6.13画面をカスタマイズする

以下のFAQ ページで、パブリッククラウドライセンスでご利用可能なカスタマイズをご案内しています。

▼ISL Light のカスタマイズ (Windows)

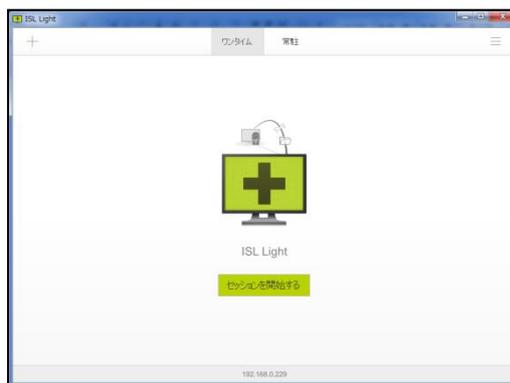
<https://is|support.oceanbridge.jp/portal/ja/kb/articles/custom-light>

パブリッククラウドライセンスでは「今すぐ起動する」で ISL Light を起動した場合のみカスタマイズをご利用いただけます。ISL Light をインストールしてご利用いただいてもカスタマイズの内容は反映されませんのでご注意ください。

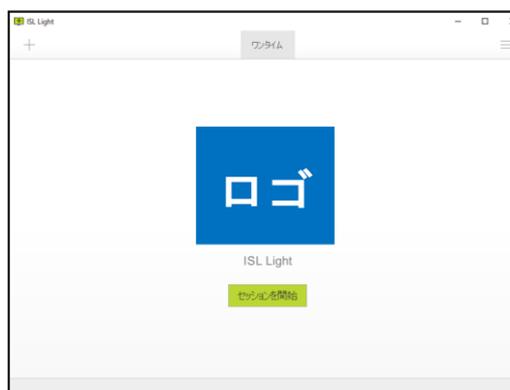
➡ (補足)

オンプレミスライセンスでは ISL Light のロゴ画像の変更および項目の非表示など、UI 画面をカスタマイズできます。カスタマイズは ISL Conference Proxy の管理画面で設定を行います。詳細は『ISL Conference Proxy 管理者ページ操作マニュアル』をご参照ください。

■ ISL Light 通常版



■ ISL Light カスタマイズ版 (ロゴの変更・常駐画面の非表示など)



6.14 応用的な使い方 WIN

ISL Light (常駐) の応用的な使い方をご紹介します。

■ アクセスパスワードなしで接続する

ISL Light (常駐) では接続時に原則としてアクセスパスワードの入力が必要ですが、コマンドプロンプトから特定のオプションを付与して ISL Light を起動することで、接続先の端末で接続を「許可」した後にアクセスパスワードを入力せずに接続を開始できます。

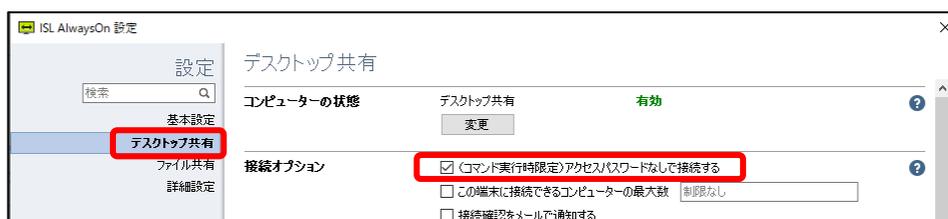
➡ (補足)

- ・ 接続先の端末に ISL AlwaysOn 2.2.9 以上がインストールされている必要があります。
- ・ 接続先の端末にリモートユーザーが登録されている必要があります。

手順は以下をご参照ください。

[準備]

1. 接続先の ISL AlwaysOn の設定画面を開き、[デスクトップ共有] - [接続オプション] の [(コマンド実行時限定) アクセスパスワードなしで接続する] にチェックを入れます。



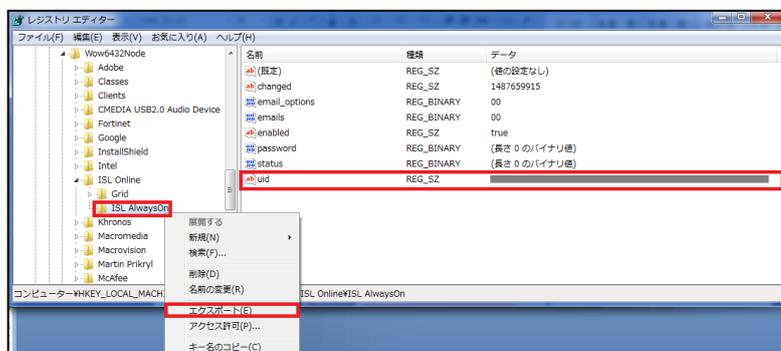
2. 接続先の uid (ISL AlwaysOn の固有の識別番号) を確認します。

■ Windows の場合

レジストリエディターを起動し、以下のキーに移動します。

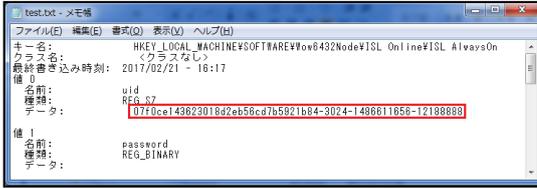
- ・ 32bit OS の場合 : HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ISL Online\ISL AlwaysOn
- ・ 64bit OS の場合 : HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\ISL Online\ISL AlwaysOn

「uid」のキーが存在していることを確認し、「ISL AlwaysOn」のフォルダー上で右クリックしてエクスポートを行います。(テキストファイル(*.txt)の形式で保存してください)



メモ帳などで保存したテキストファイル(*.txt)を開きます。名前「uid」のデータ内に

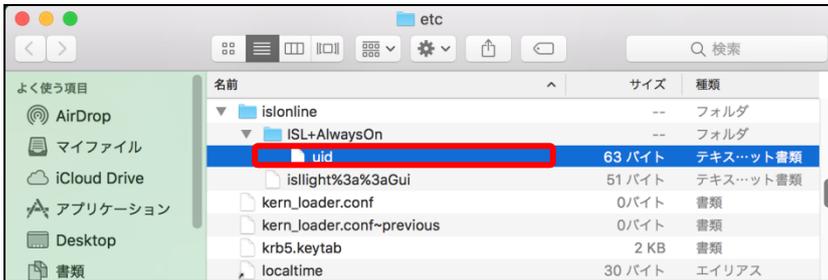
値が入っていることを確認します。



■macOS・Linux の場合

以下のディレクトリに移動し、「uid」ファイルを選択して開きます。値が入っていることを確認します。

/etc/islonline/ISL+AlwaysOn/uid



[接続]

1. ISL Light の起動 exe をダウンロードします。
2. exe の名称を変更し (※)、ローカル端末の任意の場所 (C ドライブなど) に保存します。
※半角スペースのない名称に変更してください
例: 「ISL Light.exe」⇒「ISLLight.exe」
3. コマンドプロンプトを起動し、以下のオプションをつけて exe を実行します。

(▽=半角スペース)

exe 名▽—connect-uid ▽UID▽—username▽XXXX▽—password▽XXX▽—consent-message▽”メッセージ”

例:

- ・ 「ISLLight.exe」に変更した起動 exe を C ドライブ直下に保存し、
- ・ 接続先の uid が「07f0ce143623018d2eb56cd7b5921b84-3024-1486611656-12188888」で、
- ・ オペレーターの ID が「suzuki」、パスワードが「pass」、接続先の端末に表示するメッセージを「鈴木が遠隔先から接続を行います。許可してください。」にする場合

```
ISLLight.exe --connect-uid 07f0ce143623018d2eb56cd7b5921b84-3024-1486611656-1218888 --username suzuki --password pass --consent-message "鈴木が遠隔先から接続を行います。許可してください。"
```

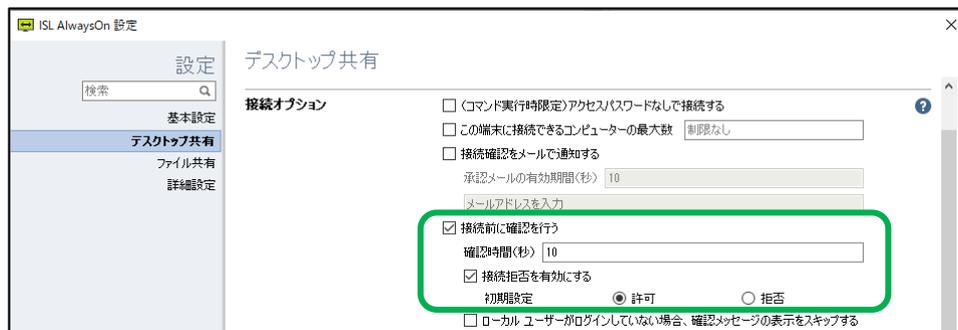
4. 接続先の端末のデスクトップ上に、3. で設定したメッセージが表示されます。

[許可] を選択すると、自動で接続 (画面共有) を開始します。



➡(補足)

1. メッセージ表示後、接続先の端末で[許可][拒否]のいずれも選択されなかった場合は「30 秒」後に自動で接続を拒否（禁止）します。
2. 接続先の ISL AlwaysOn で以下が設定されている場合も、1. の設定が優先されます。
 [デスクトップ共有] - [接続オプション]
 - 接続前に確認を行う
 - 確認時間（秒）
 - 接続拒否を有効にする：初期設定（許可・拒否）



■接続先の端末にメッセージを表示して接続を開始する

ISL Light（常駐接続）でアクセスパスワードを入力後、接続先の端末のデスクトップに任意のメッセージを表示して接続を開始することができます。

➡(補足)

- ・接続先の端末に ISL AlwaysOn 2.2.9 以上がインストールされている必要があります。
- ・接続先の端末にリモートユーザーが登録されている必要があります。

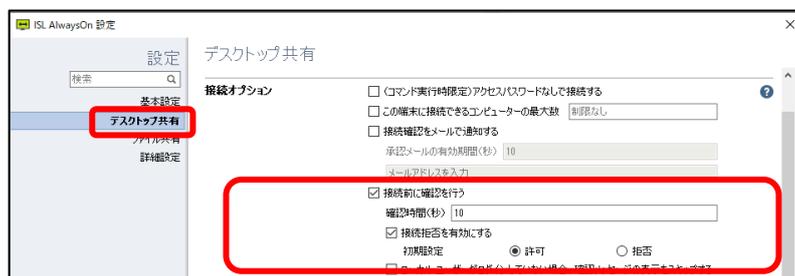
[準備]

1. 接続先の ISL AlwaysOn の設定画面を開きます。
2. [デスクトップ共有] - [接続オプション]の[(コマンド実行時限定) アクセスパスワードなしで接続する]を☑（有効）にします。

➡(補足) 必要に応じて以下のオプションもご利用いただけます。

- ・接続前に確認を行う：☑（有効）
 [確認時間（秒）]：メッセージを表示させる時間（秒数）を入力します
- ・接続拒否を有効にする：☑（有効）
 [初期設定]：（許可）または（拒否）を選択 ※

※メッセージ表示後、接続先の端末で許可・拒否のいずれも選択されない状態が続いた場合は「確認時間（秒）」後に自動で接続を「許可（開始）」または「拒否（禁止）」します。



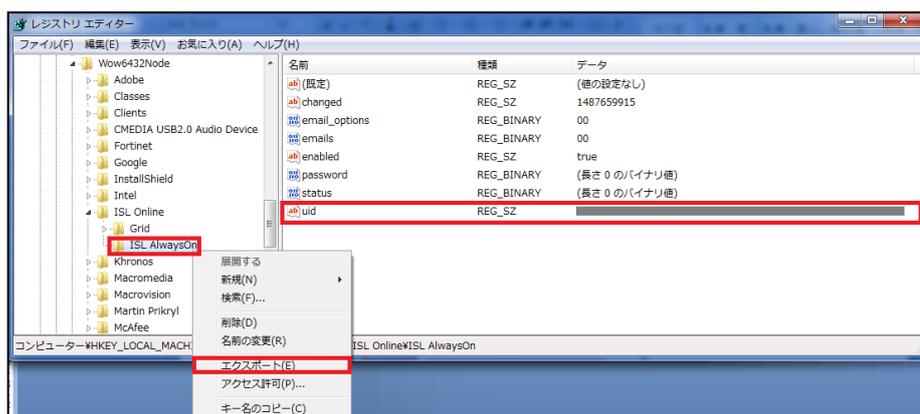
3. 接続先の uid (ISL AlwaysOn の固有の識別番号) を確認します。

■Windows の場合

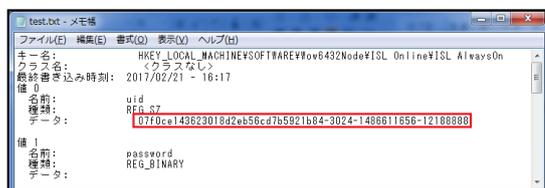
レジストリエディターを起動し、以下のキーに移動します。

- ・ 32bit OS の場合 : HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ISL Online\ISL AlwaysOn
- ・ 64bit OS の場合 : HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE Wow6432Node\ISL Online\ISL AlwaysOn

「uid」のキーが存在していることを確認し、「ISL AlwaysOn」のフォルダー上で右クリックしてエクスポートを行います。(テキストファイル(*.txt)の形式で保存してください)



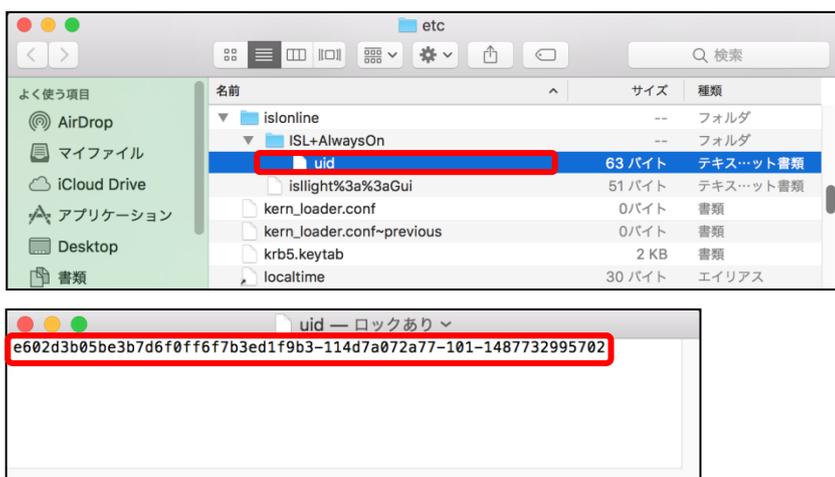
メモ帳などで保存したテキストファイル(*.txt)を開きます。名前「uid」のデータ内に値が入っていることを確認します。



■macOS・Linux の場合

以下のディレクトリに移動し、「uid」ファイルを選択して開きます。値が入っていることを確認します。

/etc/isonline/ISL+AlwaysOn/uid



[接続]

1. ISL Light の起動 exe をダウンロードします。
2. exe の名称を変更し (※)、ローカル端末の任意の場所 (C ドライブなど) に保存します。
※半角スペースのない名称に変更してください
例 : 「ISL Light.exe」⇒「ISLLight.exe」
3. コマンドプロンプトを起動し、以下のオプションをつけて exe を実行します。

(▽=半角スペース)

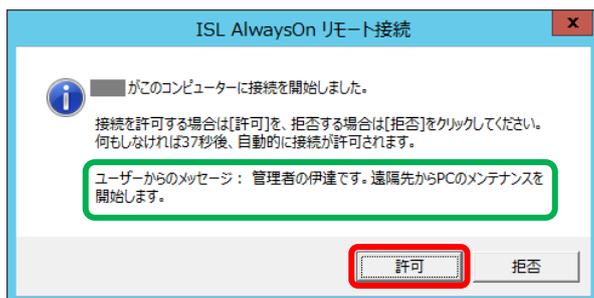
exe 名▽—connect-uid ▽UID▽—username▽XXXX▽—password▽XXX▽—notify-message▽”メッセージ”

例 :

- ・ 「ISLLight.exe」に変更した起動 exe を C ドライブ直下に保存
- ・ 接続先の uid が「07f0ce143623018d2eb56cd7b5921b84-3024-1486611656-12188888」
- ・ オペレーターの ID が「date」、パスワードが「pass」、接続先の端末に表示するメッセージを「管理者の伊達です。遠隔先から端末のメンテナンスを開始します。」にする場合

```
ISLLight.exe --connect-uid 07f0ce143623018d2eb56cd7b5921b84-3024-1486611656-1218888 --username date --password pass --notify-message "管理者の伊達です。遠隔先から端末のメンテナンスを開始します。"
```

4. ISL Light (アクセスパスワードの入力画面) が起動します。アクセスパスワードを入力します。
5. 接続先の端末のデスクトップに、3. で設定したメッセージが表示されます。[許可] を選択すると自動で接続 (画面共有) を開始します。



■ アクセスの可否を Email から行う

端末に接続があった際、指定した Email アドレス宛にアクセス確認をメールでお知らせします。アクセスの許可・拒否を行うことができます。

➡ (補足) 本機能は以下の条件に当てはまる場合にご利用いただけます。

- ・ 接続元は ISL Light 4.4.2332.175 以上をご利用ください。
- ・ 接続先の端末には ISL AlwaysOn 4.4.2332.78 以上がインストールされている必要があります。
- ・ オンプレミスライセンスの場合、別途メールサーバーの設定が必要です。詳しくは『ISL Conference Proxy 管理ページ操作マニュアル』をご参照ください。

[準備]

1. 接続先の ISL AlwaysOn の設定画面を開きます。
2. [デスクトップ共有] - [接続オプション]の[接続確認をメールで通知する]を (有効) にします。必要に応じて承認メールの有効期間(秒)を指定します。(初期値:180秒)

3. [メールアドレスを入力]欄に、通知先のメールアドレスを入力し、最後に Enter キーを押して確定します。通知先が複数ある場合、入力欄には1件ずつ Email アドレスを入力します。
4. [保存]ボタンを選択し、設定内容を保存します。

[接続]

1. 接続確認の設定がされている端末へユーザーがアクセスすると、以下のメッセージが表示されます。通知先の許可を待ちます。

2. 通知先に指定した Email アドレス宛にメールが届きます。メールを開き、[リクエストを確認する]のリンクを選択します。

ブラウザが起動し、接続を許可・拒否の選択画面が表示されます。内容に問題がなければ[接続を許可する]を選択します。



3. 接続が許可されるとユーザーは端末に接続できるようになります。

接続が拒否された場合はユーザー側にメッセージが表示され、端末へ接続はできません。



7 設定

ISL Light の設定内容を変更できます。

■ 設定画面の開き方



ログイン画面/ダッシュボード右上のメニューより[設定]を選択します。

■ 設定画面



➡ (補足)

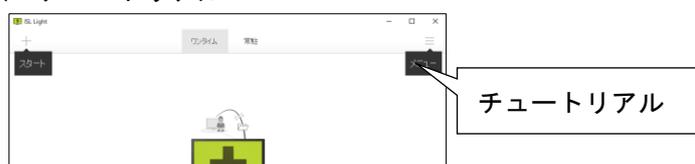
- ・ 設定画面上に表示される項目は、ISL Light の状態（接続前、接続後など）によって変わります。また項目の表示順は、バージョンによって異なります。
- ・ セッションコード取得後は変更が反映されない項目があります。その場合は一度セッションを終了した上で再度セッションコードを取得してください。
- ・ 設定を反映させるには、ISL Light の再起動が必要なものがあります。
- ・ [変更済の設定]では、現在の設定状況を確認できます（初期値と異なる設定項目のみ表示されます）。
- ・ [詳細設定]および[プレビュー]はサポート対象外です（主にトラブルシューティングで使用します）。

7.1 一般

自動アップグレードなど、一般的な内容に関する設定を行います。

自動アップグレード	ISL Light のアップグレードが可能かどうかの確認を行う頻度を「無効」「毎月」「毎週」「毎日」の中から選択します（初期値：毎日）。
言語	使用する言語を選択します。
ダッシュボード (初期設定)	利用できません。
セッション開始時に招待用ダイアログを表示する	チェックを入れると、ワンタイム接続でセッションコードの取得と同時に「セッションに招待する」の画面が開くようになります。
開始時にチュートリアルを表示する	チェックを入れると、ログイン後にメニューバー上にチュートリアルを表示します。 ※
セッション終了後、セッションコードの入力画面を閉じる	チェックを入れると、セッション終了後に自動でセッションコードの入力画面が閉じるようになります。
ツールバーを固定する（フルスクリーン時）	フルスクリーン実行時のツールバーの表示/非表示を設定します（初期値：無効）。
セッション中のツールバーの表示位置	セッション中に表示されるツールバーの位置を選択します。
セッションがインアクティブ状態になっている時間(分)	指定した期間（分）接続先への操作がない（インアクティブ状態の場合、セッションを終了します。初期値（0）に設定時は、インアクティブ状態の持続時間に関わらず、セッションは終了しません。
セッションを終了する前に、セッションがインアクティブであることを表示する時間(秒)	インアクティブ状態が続いたためにセッションを終了する前にメッセージを表示する期間（秒）を設定します。0 に設定時にはメッセージを表示せず、即座にセッションを終了します。（初期値：60）（[セッションがインアクティブ状態になっている時間(分)]が0以外に設定されている必要があります）
DirectX のバージョン WIN	「DirectX 11 Warp」「DirectX 11」「DirectX 9」「自動で選択」の中から、ISL Light で使用する DirectX のバージョンを選択します（この設定は主にトラブルシューティングで使用します）。
画面共有のグラフィックアクセラレーション WIN	「自動で選択（Windows ネイティブ）」「DirectX」の中から画面共有で使用するグラフィックアクセラレーションの種類を選択します（この設定は主にトラブルシューティングで使用します）。
ダイレクトコネクトを有効にする	チェックを外すとダイレクトコネクトを用いた接続を無効にします（初期値：有効）。 ※オンプレミスライセンスでは利用できません。

※ チュートリアル



7.2 基本設定

画面共有に関する基本的な設定を行います。

デスクトップ共有の画質	[品質を優先][速度を優先]の中から、共有画面の画質を選択します（初期値：品質を優先）。
画面共有時にフォントスムージングを有効にする WIN	チェックを外すと、アンチエイリアシングを無効にします（初期値：有効）。
画面共有時にデスクトップ背景を表示する	チェックを入れると、画面共有（見せる）実行時およびクライアントでのセッション参加時に背景画像を表示します（初期値：無効）。使用回線が遅い場合に設定を無効にすると、接続速度が改善する場合があります。
画面共有時に Windows 効果を有効にする	チェックを入れると、画面共有時に Windows Visual effect（視覚効果）を有効にします（初期値：無効）。
ネットワークが切断された際にコンピューターをロックする	ネットワーク障害等によってサーバーとの通信が切断された際に自動でコンピューターをロックします。ネットワーク回復後は端末に再接続されます。
[ESC] キー押下時にブラックスクリーンを解除するまで（秒） WIN	接続される端末側で[ESC]キーを押下した際にブラックスクリーンを解除するまでの時間を変更できます（※ブラックスクリーンが停止されるまでの秒数はオペレーター側に表示されます）。初期値：10 設定可能範囲：10～180
画面共有時に Windows Aero 表示を有効にする WIN	チェックを外すと、画面共有時に Windows Aero の表示を有効にします（初期値：無効）。
ワнтаイム接続時にブラックスクリーンを有効にする WIN	チェックを入れると、その端末に対してワнтаイム接続でセッションを行った際、ブラックスクリーンが自動で実行されます（初期値：無効）。
リモート端末操作時にデフォルトでクリップボードを利用する	チェックを外すと、クリップボードが無効の状態セッションを開始します（初期値：有効）。
デスクトップ共有中にローカルユーザーの入力を禁止する WIN	チェックを入れると、画面共有中に画面を見せている側のマウス・キーボード入力を禁止します。
キーボードのショートカット（仮想キーコード）	特定のキーボードの入力文字がユニコードに変換されず、クライアントに正しく送信されない場合にコードを定義します（この設定は主にトラブルシューティングで使用します）。
透過ウィンドウ（アルファチャネル）を送信しない WIN	チェックを入れると、透過ウィンドウ（アルファチャネル）を表示しなくなります（初期値：無効）。
Desktop duplication API の設定（Win 8 以上推奨）	[無効]を選択すると、Desktop Duplication API の設定を無効にします（初期値：自動で選択）。
ハードウェアアクセラレーションを制御する WIN	チェックを外すと、ハードウェアアクセラレーション機能を一時的に無効にします（初期値：有効）。
Desktop duplication API を利用する（Win8 以上推奨） WIN	チェックを外すと、Desktop Duplication API を一時的に無効にします（初期値：有効）。
マウスの右ボタンと中ボタンを入れ替える Mac	チェックを入れると、画面共有（見せる）実行時に操作する側のマウスの右ボタンと中ボタンの機能を入れ替えます。

Magnification API を利用する (Win8 以上 推奨) WIN	チェックを外すと、Magnification API を一時的に無効にします (初期値：有効)
モニターのシグナル OFF を検知する	特定のグラフィックドライバーが搭載されている Windows11 に接続する際に「ブラックスクリーンを有効にする」を指定して接続すると、接続先の端末がスリープしてしまう事象を回避する設定です。初期値は OS により異なります。 ▼初期値： Windows 8 以上・10：有効 Windows 11：無効
ローカルのモニター1に基づいて解像度を最適化する	チェックを入れると、接続元のモニター1の解像度が接続先にも自動的に適用されます。

7.3 ファイル転送

ファイル転送に関する設定を行います。

転送されたファイルの保存先 (受信時)	ファイル転送でファイル (フォルダー) を受信した際、デフォルトの保存先を設定します
ファイル転送完了後にダイアログを表示する	ドラッグ&ドロップなどの方法でファイル転送を実行した際にファイル転送ウィンドウ (6.1 参照) を表示します

7.4 レコーディング

レコーディングに関する設定を行います (詳細は 6.5 をご参照ください)。

7.5 音声およびビデオ

音声およびビデオに関する設定を行います。

※初回のセッションが開始されるまで、設定は表示されません。

システムオーディオを使用する Mac	チェックボックスを外すと、音声入力/出力デバイスを手動で選択できるようになります。
音声入力デバイス 音声出力デバイス	音声の入力/出力で使用するデバイス (ヘッドセット) を選択し、入力/出力テストを行います。
マイク音量の自動調節	チェックボックスを外すと、ヘッドセット音量の自動調整の機能を無効にします。
エコーキャンセル	チェックボックスを外すと、音響エコーの抑制/除去の機能を無効にします。
ビデオ入力デバイス	ビデオの入力で使用するデバイス (カメラ) を選択し、テストを行います。
ビデオ画質	ビデオカメラの画質を選択します。
モード	・なし：背景を変更せず、そのまま表示します。 ・ぼかし：背景をぼかして表示します。 ・指定した画像を使用：背景を指定した画像に変更します。
背景画像	バーチャル背景に表示する画像を設定できます。
プライバシーレベル (ぼかし具合)	背景を変更するレベル (ぼかし具合) を調整できます。
ビデオ WIN	ビデオカメラの映像を表示します。

7.6 ポート転送

フィルタ（接続許可）	使用しません。
フィルタ（リッスン許可）	<p>接続先の IP アドレスやポートを制限します。</p> <p>例：</p> <p>SSH 接続（ポート 22）を禁止、常駐端末及び 192.168.0.10-192.168.0.50 の端末への接続のみを許可</p> <pre>deny_remote_port 22; allow_remote_ip 127.0.0.1; allow_remote_ip 192.168.0.10-192.168.0.50; deny_all;</pre>
RDP 接続ファイル WIN	<p>RDP 接続中に実行可能な操作を定義したファイル（.rdp）のパスを指定して、接続開始時に読み込ませることができます。</p> <p>例：</p> <pre>C:¥Users¥user1¥Downloads¥rdp_default¥rdp_default.rdp</pre>
デフォルトの RDP スキーマ	<p>接続元に応じた設定値を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ macOS (Catalina 以前) : /usr/bin/open -W -n "rdp://full address=s:localhost:{PORT}" ➤ macOS (Big Sur 以降) : /usr/bin/open -W -n "tuxclient:///Command=LaunchApp&ConnType=4&Server=localhost&Port={PORT}&Connect=YES&Save=NO" ➤ Linux : /usr/bin/vinagre rdp://localhost:{PORT}
デフォルトの SSH スキーマ	<p>Windows で既にインストール済みの SSH 接続用クライアントを使用する場合、プログラムファイルと対応する引数を指定します。</p> <p>例：Tera Term を指定する場合（64bitOS）</p> <pre>"C:¥Program Files (x86)¥teraterm¥ttermpro.exe" localhost -P {PORT}</pre>

7.7 権限設定

ISL Light の許可/禁止に関する現在の設定状況を確認します。

※セッションが開始すると、ISL Light のツールバーから[設定] - [このセッションの設定]から確認できます。詳細は 4.1 ツールバー の このセッションの設定 をご参照ください。

7.8 カスタマイズ

現在適用中のカスタマイズが確認できます（有効なカスタマイズの項目にチェックが入っています）。設定画面上でチェックボックスを外して内容を変更することはできません。

ダッシュボード	ダッシュボードボタンを非表示
	「ワンタイム」タブを非表示 (6.13 参照)
	「常駐」タブを非表示 (6.13 参照)
	リモート接続時に表示するタイトル
	「パスワードを保存する」を非表示
	「常駐接続をセットアップ」を非表示
	「セッション参加」を非表示
解像度の設定を開く	解像度の設定を開く
ログイン GUI	「ログイン情報を保存」を非表示 (6.13 参照)
	「パスワードを忘れた場合」を非表示 (6.13 参照)
	「サインアップ」を非表示 (サポート対象外)
	サーバーの選択を非表示 (6.13 参照)
招待	「オペレーターを招待」を禁止
	「招待する」を禁止
	セッションコード発行画面にて招待 URL のコピーを禁止
セッション情報	「編集」を非表示
セッション	「セッション転送」を禁止
	読み取り専用でチャットを利用
レコーディング	開始時にクライアントへ確認メッセージを表示
	管理者モード内の再起動オプションを非表示
ポート転送	「代替接続」を非表示
クライアント	デフォルトで「開始時に確認画面を表示しない」を有効
	クライアントが参加するまでセッションコード発行画面を表示

8 ISL Light のアップグレード方法

新たなバージョンがご利用可能な場合、手動でアップグレードすることが出来ます。ISL Light をインストールしてご利用の場合のみ対象です。

【方法1】 ISL Light の右下からアップグレードする

端末にインストールされた ISL Light を起動すると、ご利用可能な新しいバージョンがある場合は右下に[アップデートが可能です]とリンクが表示されます。リンクを選択すると手動でアップデートが可能です。



【方法2】 バージョン情報からアップグレードする

1. 端末にインストールされた ISL Light を起動します。
2. 右上のツールバーをクリックし、[バージョン情報]を選択します。



3. ご利用可能な新しいバージョンがある場合は[アップデート]ボタンが表示されます。[アップデート]ボタンを選択すると手動でアップデートが可能です。



9 アンインストール

ISL Light のアンインストールの手順をご説明いたします。

■Windows の場合

1. Windows の [コントロールパネル] - [プログラムと機能] から、ISL Light のアンインストールを行います。

2.



確認メッセージが表示されます。

「はい」を選択するとアンインストールを開始します。

■macOS の場合

1. [メニューバー] - [移動] - [アプリケーション] に移動します。
2. ISL Light のアプリケーションをゴミ箱に移動します。

■Linux の場合

1. ターミナルを起動し、以下のコマンドを入力します。
`sudo /opt/ISLOnline/ISLLight/uninstall`
2. 管理者ユーザーのパスワードの入力を求められた場合は入力します。

➡ (補足) フルアンインストールについて **WIN**

Windows 版をご利用の環境で、ISL Light のアンインストール後に端末内のキャッシュおよびレジストリキーまで完全にデータを削除したい場合は、別途サポートセンターまでお問い合わせください。

(ISL AlwaysOn など他の ISL Online 製品をご利用中の場合は、レジストリキーを削除することで使用に影響が出る場合がございますのでご注意ください)

ご不明点や不具合などがございましたら、下記 ISL Online FAQ ページをご参照ください。

<https://www.islonline.jp/help/index.html>

ISL Online 製品に関するお問い合わせはメールのみになります。

電話でのお問い合わせは受け付けておりませんのでご了承ください。

製品の詳しい情報については、以下の ISL Online ウェブページをご参照ください。

<https://www.islonline.jp/>

ISL Online 開発元

XLAB d.o.o.

URL: <https://www.xlab.si/>



ISL Online 国内総販売代理店

株式会社オーシャンブリッジ

URL: <https://www.oceanbridge.jp/>

